

# 京都市におけるM I C E実態調査

平成26年3月

京 都 市

# 目 次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| はじめに .....              | 1  |
| I 国際会議等主催者ヒアリング調査 ..... | 2  |
| 1 調査の概要 .....           | 2  |
| 2 調査結果 .....            | 4  |
| II 会議参加者アンケート調査 .....   | 17 |
| 1 調査の概要 .....           | 17 |
| 2 集計結果 .....            | 18 |
| III 調査結果の考察 .....       | 31 |
| 1 考察その1 .....           | 31 |
| 2 考察その2 .....           | 36 |
| 3 課題と方向性 .....          | 38 |

## はじめに

京都市は、平成 22 年 3 月に「京都市 M I C E 戦略」を策定し、M I C E 推進を京都市の重要施策のひとつに位置付け、その積極的な誘致に取り組んできたところである。

本業務は、当該 M I C E 戦略を具体化した実施方針を策定し、京都市にふさわしい M I C E 推進施策に活用するため、京都市で開催された国際会議等に係る開催地決定要因及び京都開催による効果並びに参加者の宿泊・購買等による経済効果を把握・分析したうえで、マーケティング戦略の方向性を抽出することを目的としたものである。

そのため本業務において 2 つの調査を実施した。

1 つは、これまでに京都市で開催された国際会議・大規模国内会議の主催者等に対するヒアリング調査である。ヒアリングの内容は、京都開催を決めた決定要因、実質上の決定権者、会議準備期間、総経費、開催により得た効果及び課題等である。事前に了解を得た 17 件の会議主催者等を訪問し、ヒアリング調査を実施した。

もう 1 つは、本年度内に京都で開催された国際会議・大規模国内会議の参加者(日本人及び外国人)に対する現場での聞き取りアンケート調査である。アンケートの内容は、居住地・国籍、宿泊・購買費、再訪意欲等である。5 つの会議への参加者から合計 882 の回答を得た。

2 つの調査結果を分析することにより、京都市における M I C E の実態を明らかにし、京都市が今後「京都市 M I C E 戦略」を展開していく上で不可欠と考えられるマーケティング戦略の課題と方向性を示し、「戦略」として進化させていくための基礎資料とするものである。

最後に、2 つの調査にご協力いただいた方々に改めて感謝申し上げます。

# I 国際会議等主催者ヒアリング調査

## 1 調査の概要

### ①目的

平成 24・25 年度に京都市内で国際会議・大規模国内会議を開催した主催者等に対して、主として京都での会議開催を決めた決定要因、実質上の決定権者、会議準備期間、会議にかかった総経費、開催により得られた効果及び課題等についてヒアリング調査を実施した。

### ②内容

ヒアリングの内容は以下の項目である。主として会議の概要や、京都開催を決めた理由、京都及び会議施設等への意見・要望等を可能な限り聞き出した。ヒアリング対象には、事前にこの項目を送付し、当日のヒアリングが限られた時間の中で円滑に進めた。なお、対象によっては内部の事情等によりご回答いただけなかった項目もある。

#### —— ヒアリング調査項目 ——

1. 該当会議の概要、定期性、開催主体のあり方 等
2. 京都での会議開催を決定されるに至った経緯(検討期間等)
3. その際、決め手となった(外的・内的)要因
4. 会議の準備期間
5. 会議の総費用(総予算)
6. 例年と比べての参加率。他の開催地と比較して(期待と結果)
7. 次の各項目について満足な点、不満な点について
  - (1)会議施設・設備
  - (2)宿泊施設
  - (3)会議施設・宿泊施設関係者の対応
  - (4)会場への案内表示・地図
  - (5)交通機関
  - (6)食事
  - (7)観光地
  - (8)地元の歓迎ムード
  - (9)その他
8. 参加者の評価(期待)
9. 会議開催により得られた成果と今後の課題
10. その他

### ③対象

調査対象の選定に当たっては、参加者数が「おおむね 1,000 名以上または海外参加者が 200 名以上の大規模な会議」を目標として設定した。しかし、調査期間内の対応が無理な会議主催者もあり、目標のすべてを達成することはできなかった。それを補充するため、海外参加者の割合の多い「国際会議」を優先して選んだことから、参加者数が 1,000 に満たない会議も対象とした。結果的にこの種の会議の多くを占める自然科学系・医歯薬学系の学協会、施設Aを開催場所とする会議が多くなった。なお 17 のうち恒常的に京都を会議開催地と決めている会議が 2 つ含まれている。

ヒアリング調査では、会議運営の指揮に当たり会議開催時の実情を最も知っていると思定される会議主催者（「会長」、「組織委員長」、「事務局長」など幹部クラスの方々）にヒアリングを依頼した。対応いただくことが叶わなかった場合は会議運営に携わった事務局員や PCO(※)担当者を対象とした。※PCO…Professional Congress Organizer, 国際会議運営専門業者

ヒアリング調査に応じていただいた会議主催者の会議名と開催日時・場所等は以下の通りである。順序はヒアリング調査実施日の順である。

#### —— ヒアリング対象一覧 ——

| 対象会議          | 開催日時       | 開催場所 | 参加者総数(人) | うち海外参加者数 |
|---------------|------------|------|----------|----------|
| 1) 自然科学系会議 1  | 2012 年 6 月 | 施設 B | 555      | 不明       |
| 2) 国土開発系会議    | 2012 年 6 月 | 施設 A | 1,403    | 972      |
| 3) 自然科学系会議 2  | 2012 年 6 月 | 施設 B | 約 600    | 不明       |
| 4) 医歯薬学系会議 1  | 2012 年 3 月 | 施設 A | 約 3,000  | 不明       |
| 5) 自然科学系会議 3  | 2012 年 3 月 | 施設 A | 2,128    | 1,606    |
| 6) 医歯薬学系会議 2  | 2012 年 5 月 | 施設 A | 10,240   | 152      |
| 7) 自然科学系会議 4  | 2013 年10 月 | 施設 A | 約 1,650  | 約 100    |
| 8) 医歯薬学系会議 3  | 2012 年 6 月 | 施設 A | 約 3,300  | 約 20     |
| 9) 自然科学系会議 5  | 2012 年11 月 | 施設 C | 約 1,000  | 約 300    |
| 10) 自然科学系会議 6 | 2012 年 9 月 | 施設 A | 1,819    | 976      |
| 11) 自然科学系会議 7 | 2012 年11 月 | 施設 A | 1,293    | 947      |
| 12) 自然科学系会議 8 | 2012 年 7 月 | 施設 B | 484      | 176      |
| 13) 医歯薬学系会議 4 | 2012 年 8 月 | 施設 A | 約 800    | 約 200    |
| 14) 医歯薬学系会議 5 | 2012 年10 月 | 施設 D | 1,348    | 約 10     |
| 15) 医歯薬学系会議 6 | 2014 年 1 月 | 施設 A | 約 3,300  | 不明       |
| 16) 科学技術系会議 1 | 2012 年12 月 | 施設 A | 約 1,200  | 約 360    |
| 17) 科学技術系会議 2 | 2013 年10 月 | 施設 A | 約 1,100  | 約 880    |

## 2 調査結果

以下、調査項目ごとに調査結果を記述する。その要約は、章末の表「ヒアリング調査まとめ」(1)～(4)を参照。

### ①該当会議の概要、定期性、開催主体のあり方 等

開催主体の決まり方は、本部組織の委員である日本人研究者が指名を受け、またはコンペにより、本部組織や開催決定委員会で決定されることが多く、京都の研究者が指名されれば京都が開催地になることが多い

- 調査対象 17 の内訳は国際会議が 10、国内会議が 7 であった。国内会議でも海外からの招待講演者等以外に、外国人の学協会員、大学教員、企業従業員等が含まれることが多い。
- 開催の定期性では、国際学会の場合は「3 年ごと」「2 年ごと」の周期で「ヨーロッパ・アメリカ・アジア」各大陸を巡回するケースが多く見られた。国内学会の場合は、ほぼ毎年国内いずれかの都市で定期的に開催される「年会」であるが、全国 5～7 地域を巡回することが多く、近畿・関西地域の順が 5～7 年に 1 度回ってきたとしても、地域内の京都・大阪・神戸いずれかの都市の争いになる。
- 開催主体の決まり方としては、国際学会では、国際学会の委員会メンバーに名を連ねる日本人研究者(たいていは国内学会の有力者でもある)が、主に国内学会・学界の国際的ステータス向上等のため、日本での開催を国内学会・委員会に諮って開催主体としての体制を整え、決定組織に働きかける(開催都市コンペに応募する)ケースが多い。国際学会では多くの場合、理事会・評議会のような本部組織もしくはその中に設置された会議開催を担当する委員会が開催主体・都市を決定する。
- 国内学会も同様に、学会本部組織(多くは有力な本部役員の推薦)のメンバー個人に対する「会長」(会議主催者)指名で決まることが多い。あるいは、持ち回りの場合では各「支部」など地域の組織体制(大学や、京都・関西・近畿など学会ごとに異なる地域ブロックでの単位組織)が開催責任を負う。開催都市に関するコンペというケースはあまりなく、むしろ会議運営主体となる各地域の組織体制内で開催都市が協議・決定される。
- 国内学会では、一般に京都市内の大学の教員等が学会の会長に選出されれば京都での開催が多くなると推定されるが、開催予算や地元組織の意向、他都市の会議開催支援程度等を総合的に判断し、京都以外の都市・会議施設が選択されることが少なからずあることがうかがえた。

### ②京都での会議開催を決定されるに至った経緯(検討期間等)

国際学会では京都の国際的競争力も 1 つの決定要因にはなるが、国内学会では他都市の会議施設の料金や予算額、支援制度等を総合的に検討して決定される

- 国際学会の開催契機としては、前記の日本人の本部組織メンバーもしくは彼が所属する国内学会が、本部組織やそのメンバーから「日本での開催」もしくは「開催地決定コンペへの参加」を打診され、それに応じるという形が多い。

- 開催都市コンペに応募する場合、国内学会等の国内組織を調整して、国際的に戦える体制と開催都市を検討する。「体制」とは国際的な知名度のある長とそれを支える構成メンバーであり、そして開催都市の検討では、国際的競争力のある京都の名が上がることが多い。
- 国際学会の本部組織メンバーが「京都」の名を先に上げるケース、また、日本人の本部組織メンバーが開催都市案を他の本部組織のメンバーに打診し、意向に添わなかったことで京都に変更した例もあった(国土開発系会議)。さらに、都市レベルでの誘致コンペでは、積極的なロビー活動を展開し1国1票を地道に集めたオリンピックのような例もあった(自然科学系会議6)。
- 国際会議のうち、特に「欧州外で初」「アジアで初」という場合など、日本でなら「京都しかない」という判断を下した主催者もある。
- 京都の強みとして上がったのは、京都は「外国人研究者に人気」「関東の研究者、参加者には京都好きが多い」といったことと、京都の「ネームバリュー」「ブランド力」「観光スポットの集積」「文化の香り」などの特性である。京都で開催を決めた主催者の多くは、国際会議・国内会議を問わず「外国人研究者に人気」「観光スポットの集積」を上げた。
- 国内学会では、京都市内の大学の教員が学会の会長に選出され、地元京都での開催に踏み切ったケースが多い。ただ京都市内の会議主催者の中には、すんなりと京都に決めるのではなく、地域組織の了解を得て、他都市の会議施設の料金や空き具合、予想参加者に伴う参加登録費や助成金等の予算額、会議開催支援制度等を総合的に検討してから決めたケースもある。
- 国内学会でも、国内大学間による誘致企画コンペという例もある(医歯薬学系会議2)。
- 京都市外の会議主催者では、地元志向で地元都市で開催したいという研究者が大半であろうと推測されるが、京都で開催した会議主催者の大半は、さまざまな学会等で京都には頻繁に来てなじみがあり、京都をこよなく愛する「京都ファン」の研究者が多かった。

### ③その際、決め手となった(外的・内的)要因

**決め手としては、京都という都市であることを第一に、知名度のある会議代表者や運営体制、運営予算に見合う会議施設、そこまでの交通の便等、複数の要因がある**

- 国際学会では、決め手としてまず第一に「京都」という都市の強みが上がった。次いで、「国際的知名度のある長」やメンバー構成による国際会議の「運営(委員)体制」、国内会議では、それに加えて「会議施設」、「運営計画」、「会議テーマ」等が指摘された。
- 「国際的知名度のある長」や「運営体制」等については、誘致合戦に際して「組織構成メンバーの顔」の戦いになることは想定されるが、ここでは指摘があったことのみを書きとどめておく。
- 「会議施設」決定の決め手としては、大規模会議の場合、京都市内では「施設の選択肢が限られている」ことが一様に指摘され、第一に運営予算、予算に見合う会議施設、交通の便、会議・宿泊施設が一体化もしくは近接しているかどうか等の理由により、施設Bやその他の市内ホテルが選ばれていると言える。また、国際会議なら施設Aしかない

という施設Aのブランド力が主催者に効いていることも感じられた。

- 誘致コンペ等に際しては、都市紹介等の情報ツールも有力な武器になる。準備資金があるのならツール制作にお金をかけられるが、そこまではなかなか手が回らないのが実情と考えられる。誘致コンペに勝利したのは、京都文化交流コンベンションビューロー提供による「情報ツールが決め手になった」（自然科学系会議 1）という意見もあった。

#### ④会議の準備期間

**誘致にあたっては、長いものでは国際会議は開催年の6年以上前、国内会議では3年以上前から準備に取りかかっている**

- 準備期間には、あるキーパーソンが誘致を計画・決断する時期からの準備と、開催地・会長等の決定後に実際に始まる会議運営の準備という2つの意味がある。
- 前者の準備については、国際会議には2～3年周期のものが多く、各大陸巡回ということになると、3年周期のものでは最低6年以上前から、2年周期では4年以上前の準備が必要になると推測される。というのは、例えば3年周期のある年の学会(での委員会等)で次の次(6年後)の開催概要と開催都市が決まるとすれば、6年以上前からプレゼンテーションの準備が必要だからである。国内学会の主要メンバーに誘致を打診し、合意を得て計画を立て、誘致作戦を練り、開催都市を絞り込むといった準備である。最も長いものでは「7, 8年かけた」（自然科学系会議 8）という例もあった。同様に、国内会議の場合も、2回前の会議時にはすでに決定されているというケースが多かった。
- 後者の、実際の会議運営の準備では、国際会議は1年～2年半前、国内会議は各年の会議も3年周期の会議も1年～1年半前から本格的な準備に突入するケースが多い。京都での開催の場合、観光シーズンの開催予定であれば宿泊施設の確保が重要課題の1つとなり、他の準備に先んずる場合がある。
- 準備内容は、運営計画に添った組織委員会やプログラム委員会等各作業を分担する各委員会の立上げと運営、資金計画、発表論文の公募・審査、会議施設の選定、PCOの決定、助成制度への応募、会議当日の運営計画等、多くの作業が想定される。

#### ⑤会議の総費用(総予算)

**会議開催費用は2,500万円から5億円まで、会議の性格によりかなり幅がある。大規模会議では、多面的な収入源の確保を模索しており、特に展示スペース確保による企業からの出展収入は不可欠である**

- 17件のうち最も多いもので5億円、最も少ないもので2,500万円であった。予算のベースは参加登録費になるが、登録費も12万円から1万円までと幅広い。国際学会・会議では3～7万円、国内学会では1, 2万円が多くなっている。
- 参加登録費をベースに、開催地自治体や学術振興団体、助成財団、関連企業等からの助成金・寄付金等で全体予算を構成する。特に医歯薬系学会等の大規模会議では、関連企業の展示出展や関連産業団体からの寄付、ランチョンセミナーへの企業協賛等が多面的に得られれば、予算枠を大幅に拡大でき、豊富なプログラムを用意することが可能にな



る。したがって、企業展示スペースの確保は不可欠の条件となっている。

- ただ、近年では関連企業の不況等により企業からの寄付金・協賛金が減りつつあるのが現状で、今後は会議規模の縮小もやむを得ないという主催者も何人かあった。

#### ⑥例年と比べての参加率。他の開催地と比較して(期待と結果)

大半の主催者が、京都開催により例年に比べ参加率が上がったとしており、京都は他都市より吸引力があり、京都開催がMICEの振興に大きく貢献していることが認められる

- 17件のうち参加者数の最も多いものが1万240名(医歯薬学系会議2)、最も少ないものが484名(自然科学系会議8)で、参加者数にも幅があった。1,000名台が最も多く8件、1,000名以下が4件、3,000名台が3件、2,000名台・10,000名以上が各1件であった。
- 京都で開催することの効果として、国際会議においては例年と比べて参加率が上がるのではないかという仮説をもって調査に臨んだところ、大半の主催者から同意を得られた。会議主催者のほうも、京都開催により参加者の満足とともに参加率の上昇という期待があったはずである。「550名は初」「史上2番目の多さ」「これまで最高だったパリを抜いた」「前回の台北を上回った」「予想を大きく上回った」等々、それぞれが参加率上昇の理由を京都での開催によるところが大きいとしている。
- 国内学会では、京都開催と同程度かそれ以上に「大会委員長」や「運営体制」「開催テーマ」が参加率上昇の理由に上がった。

#### ⑦次の各項目について満足な点、不満な点について

##### 1) 会議施設・設備

主催者からは、京都は1,000人以上規模の会議施設の選択肢が限られており、近年増えつつある500人規模の会議でも安い料金の施設が少ないとの指摘がある

- 17件の会議の主たる開催場所は、施設A12件、施設B3件、施設C・施設D(いずれもホテル)各1件であった。
- 京都市内で1,000人以上という規模の会議をする場合、会議施設の選択肢がいくつか絞られてしまうことを何人か的主催者は認知しており、結果的に限られた選択肢の中から予算に応じて使用する会場や部屋数を決めざるを得ない状況と言える。
- また一方、近年は500～1,000人規模の学会、研究集会等が増えているという指摘もあり、「500人規模の安い料金の施設が少ない」ため京都は対応しづらいのではないかという意見があった。
- 京都は春秋の観光のトップシーズンには宿泊施設に困ることを予想して、その時期の開催を避ける例があり、あえてその時期に開催する場合は、相当数の宿泊施設の確保をPCO選定の第一条件に上げた例もあった。
- また、国立京都国際会館等、市内の会議施設の閑散期には「サービスマン」を新設し、料金を安くしてはどうかという提案があった。施設使用料が高いという実感がこうした提案に結びついたものと考えられる。

- 施設Aについては、「いい施設・設備」「参加者の評判は良かった」「千数百人規模の会議にはピッタリの施設」といった肯定的な意見と、「いい施設・設備だが料金が高い」「キャンセル料も問題」といった使用料金に関するものと「古い」「展示等のスペースが足りない」といった施設に関するものについての否定的な意見に分かれた。
- 施設Bについては、「いい雰囲気」「いい施設」「リーズナブルな料金」「交通の便が良く京都駅からも歩ける」といった肯定的な意見と、「施設は古いイメージ」「茶室のようならもう少し京都らしい雰囲気・施設を」という否定的な意見があった。3件のうち1件は、施設Aと迷っているうちに日程が埋まってしまう(やむを得ず)施設Bにしたというものだった。
- 施設C・Dについては、どちらも京都駅に近接したホテルであり、「京都駅の近くで大変便利」「すべてをコンパクトにまとめることができ満足」など肯定的な意見が多かった。ホテルを会場に選んだ理由として、1件はそのホテルで定期開催していること、1件は外国人研究者が「会議の合い間に休むことができる」会議場・宿泊施設一体型を好むという理由であり、確かに「予算さえあれば会議場と宿泊を一緒の場所にしかかった」という意見もいくつかあったことを合わせると、海外や他都市大規模会議複合施設に慣れた研究者がいることを改めて知らされた。

## 2) 宿泊施設

**会議開催と一定の宿泊施設の確保はセットになっており、  
観光シーズンと学会開催シーズンが重なることは、京都の根本的な課題である**

- 前述のように、会議開催と一定の宿泊施設の確保はセットになっており、観光シーズンと学会開催のシーズンが重なることは、京都の根本的な課題としてある。
- すべて旅行会社にまかせたりして「問題はなかった」とする主催者が大半ではあったが、中には「VIP用の部屋数が足りず困った」「11のホテルに分散し管理が大変だった」「会議が8時から始まるのに7時からの朝食時間を早めてくれなかった」などの不満や、また、海外客が多いのに「外国新聞が少なく外国放送も入らない。部屋は有線LANしかない」とホテルの情報環境(2012年6月時点)に苦言を呈する主催者もいた。
- ホテルについては、歓迎レセプション等の会場にしたところが多く、総じて好評であったが、「思ったより多くの人が集まり会場から溢れた」「壇上の催しが見られなかった」という意見もあり、改めて京都市内のホテルでは大人数が一堂に会する部屋が限られていることが指摘された。

## 3) 会議施設・宿泊施設関係者の対応

- 会議施設に関しては「使用料が高い」と不満を述べるが多かったが、各施設のスタッフの対応については、総じて「良かった」という主催者が多かった。施設Aの、懇親会等の要望に添った対応や思いがけないサービスなどに「感激した」という感想もある。特にホテル関係者・スタッフの対応については、主催者の満足度はきわめて高かった。

#### 4) 会場への案内表示・地図

#### 5) 交通機関

**4 会場いずれの会場への行き来も、総じて「便利」「分かりやすい」と評価された。  
ただ、地下鉄の乗換え案内の表示が分かりにくいという指摘が1件あった**

- 今回上がったいずれの会場への行き来も、総じて「便利」「分かりやすい」という評価であった。市内地図等の会場への案内ツールも会議参加登録時等に PCO 等が用意して事前に配布されるし、また会議場やホテルのツーリストデスクにも置いてあるからか、不平などは聞かれなかった。
- 市内の交通機関についても不満は聞かれず、会議参加者はシャトルバスや地下鉄等を利用して、おおむねスムーズな移動を行ったと推測される。
- ただ1件、地下鉄の乗換え案内の表示が悪いという指摘があった。地下鉄烏丸御池駅や地下鉄四条駅など乗換え駅の案内表示が分かりにくいという意見である。その意見は、会議場(サブ会場)のある駅への乗換え駅での案内表示がわかりにくく、そのために誘導員が必要となってしまったということとセットになっているが、案内表示が分かりやすいかどうかについては解釈が分かれるところであろう。

#### 6) 食事

**会議施設のロケーションによって食事(昼食)の満足度には差があった。  
ロケーションの悪い施設への会議参加者は、全体に評価が低い**

- 昼食に関しては、施設Aでは、あらかじめ軽食を十分用意したり、企業協賛によるランチョンセミナー(※)を設けた会議では問題はなかったが、そうでない会議では、館内のレストランも隣のホテルも「高い」「品数が少ない」、「周りに食べる所がない」という厳しい意見が多く聞かれた。ある1人は「昔から昼食の問題がある」ことを認知していた。  
※ランチョンセミナー…学会の昼食時間帯を利用して開催される学会の趣旨に準ずるセミナー。  
共催する企業・団体の協力により昼食の弁当(無料)が提供され、食事しながらセミナーを聴講する。
- 施設B内のレストランは「狭い」という評価で、レストランや和食店が集まっている近くのショッピングセンターと京都駅が昼食場所となったようである。2つのホテルに関しては、近くに京都駅があり、まったく問題はなかったように見受けられた。
- その他、会議場とは別に、主に市内ホテル等で開催されることの多い歓迎レセプションや懇親会、バンケット等、会議行事に伴う食事に関しては、総じて「美味しかった」という高い評価であった。

#### 7) 観光地

**観光都市・京都にあつて、観光資源を活かしたエクスカージョンのメニューは豊富であり、その質も高く評価されている**

- エクスカージョン(※)はほとんどの会議で実施されていた。会議事務局が企画して独自のコースを設定するものと、旅行代理店に任せてしまうものとに分かれたが、後者のほうが多かった。旅行代理店が用意した観光コースにしても、京都では「他都市より豊富なメニュー」から選べ、参加者は満足だったとのことである。

※エクスカージョン…会議開催地周辺の自然や歴史、文化に触れる小さな周遊旅行

- また、こうしたエクスカーションを用意しても、外国人の中にはこうした限られたものを利用せず、個人かグループかで自分たちの好みに合った目的地に出かけて行ったという報告が、主催者の何人かから聞かれた。外国人の中にも京都へのリピーターが少なからずいること、また京都への思い出が強いことがうかがい知れる。
- 歓迎レセプションや懇親会では、主に京都市の支援を受けて、京都ならではの趣向を凝らした催しを取り入れられている。舞妓、芸妓さんによる舞いや日本酒菰樽の鏡開き、茶道のお点前体験などである。外国人には大変喜ばれたという意見が多かった。
- 最後に、ある理工系学会から提起された要望として、ソーシャルプログラムとして京都に多い会議テーマに関連した企業の工場や研究所等の施設見学コースを組み入れたので、そのための仲介をしてほしいというものがあった。こうした主催者と市内企業との「仲介」も、課題の1つとしてある。

#### 8) 地元の歓迎ムード

**会議主催者の大半は地元京都の支援を受けて、  
受入関係者に対して総じて好印象を持っている**

- ヒアリング対象の大半が、京都府や京都市、京都商工会議所、京都文化交流コンベンションビューロー等の「後援」、府知事・市長のレセプション等への出席、エクスカーションや市民公開講座等での支援、情報ツールの提供等により、総じて「歓迎」ムードを感じており、地元京都の対応に好印象を持っているように見受けられた。
- (会議広報用に)お寺の写真を手入して使用許可を1つ1つにお願いをしたが、許可をくれないところもあったりして、京都の「皆が歓迎しているわけではないと認識した」という例も1件あった。
- 同じ主催者からは、行政・市営交通機関の非協力についての指摘を受けた。1つは、自分たちがチャーターした観光バスの一時駐車に市役所前広場を貸してもらえなかったこと、もう1つは地下鉄市役所駅に会場となるホテルへの大きな案内表示を掲げてもらえなかったことである。

#### ⑧参加者の評価(期待)

**京都での開催に、会議主催者も会議参加者も大変満足し高い評価を与えている**

- 大半の会議主催者が、参加者が大変満足し、高い評価を得たという感想であった。「満足」「高い評価」には、京都という場所、例えばまちの雰囲気や伝統文化等に触れて感激したという満足、評価と、個々の会議運営についてうまくやってくれたという満足、評価が入り混じっている。学会内部で参加者にアンケートを取ったところ、9割の人が「良かった」と答えた学会もあった。「将来に語り継がれる会議」という最大級の讃辞や、「次も京都でやろう」「京都でまた会おう」「京都をまた訪れたい」といった感想が主催者に寄せられている。
- 初めて海外の日本・京都が開催地となった主催者は、期待通りの京都で大変好評だったこと、また欧州外で初めてというケースで開催した主催者は、京都での会議があまりに

好評だったので、これまでは欧州と欧州外の順次開催だったが、規定が変わって今後は欧州に戻らず世界中を回ることになった(自然科学系会議 1)という報告があった。

#### ⑨会議開催により得られた成果と今後の課題

- 個々の会議の内的な成果としては、国際会議を国内で開催することにより、ふだん国外で開催される折には参加できない若手研究者が参加でき、海外の研究者と交流することができた、これまで分からなかった海外の学界の事情を知ることができた、会議運営を通じて地域単位の学会支部の結束を深めることができたといったことが上げられた。
- 会議運営に関しては、特に初めて担当した主催者からは、京都で開催する場合は会場も宿泊も早目に確保しないといけないこと、特に観光シーズンには確保が難しいこと、PCOの使い方、京都独自の支援制度を事前に知っておくべきこと等を学んだといったことが教訓・反省として語られた。
- 個々の会議の内的な課題として、経費縮小等の厳しい状況の中で今後は規模を小さくして(分科会数を統合等)コンパクトにせざるを得ないということを上げた主催者がいた。

#### ⑩その他

##### 国際会議誘致支援制度の金額の増額と基準緩和を、という要望もあった

- 京都への要望として、京都市の国際会議誘致支援制度については、具体的ではなかったが、金額の増額と基準緩和という要望が何人かの主催者から出された。
- 京都市以外に関わることで、国やその外郭団体、助成財団等による国際会議等の開催助成金を申請したが、交付決定がなされたとしても金額交付の決定・執行が遅く年度末になったりするという指摘もあった。各機関の慣例のためどうしようもないところもあるが、可能であれば何らかの措置を講ずることができればと考えられる。





「京都市におけるM I C E実態調査」 ヒアリング調査まとめ (1)

| No       |             | 1                                                                                    | 2                                                                                             | 3                                                                 | 4                                                                          | 5                                                                           |
|----------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 項目       | 会議名         | 自然科学系会議 1                                                                            | 国土開発系会議                                                                                       | 自然科学系会議 2                                                         | 医歯薬学系会議 1                                                                  | 自然科学系会議 3                                                                   |
|          | 開催時期(日数)・会場 | 2012 年 6 月⑤ 施設B                                                                      | 2012 年 6 月⑦ 施設A                                                                               | 2012 年 6 月⑦ 施設B                                                   | 2012 年 3 月③ 施設A                                                            | 2012 年 3 月⑥ 施設A                                                             |
| 1 概要等    |             | ・学会創設 20 周年でアジア初の京都<br>・かつては 2 年ごとにスペインと他の国との交代だったが 2014 年から世界巡回に<br>・国際学会本部の委員会が決定権 | ・日本では 1960 年と 1984 年の年次総会開催経験、今回の京都が 3 回目。大会は初<br>・各国で毎年 1 回年次例会、3 年ごとに大会<br>・本部組織の会議開催委員会が決定 | ・日本では 3 回目の開催<br>・2 年ごとに世界各国で開催<br>・国際諮問委員会(約 30 名)と、その中の開催委員会が決定 | ・全国を巡回する毎年開催の研究集会。国際会議の位置づけでないが、国内大学の外国人研究者等約 100 人が参加<br>・地域ブロック、都市の順に決まる | ・1986 年の東京以来 26 年ぶり 2 回目の日本・京都で開催。世界で 1 万 6,000 人の会員<br>・本部組織の開催委員会が開催都市を決定 |
| 2 京都決定経緯 |             | ・それまでのリゾート地をやめ、欧州外の京都のような文化の香りのする都市で、との要望                                            | ・委員会メンバーの希望を聞き、横浜案を京都案に変更、3 都市の中から勝ち取る                                                        | ・欧米垂 3 地域の開催バランスを配慮して順に開催地決定<br>・国内委員会で都市を決定                      | ・関西地域の組織委員会での提案と合意に基づいて決定                                                  | ・6 年前(2006 年)で委員会の 1 人から密かに打診あり国内研究者で誘致を計画<br>・6 都市によるコンペで勝ち抜く(2 都市)        |
| 3 決定要因   |             | ・「京都」と「知名度のある組織委員長」<br>・コンペへの K C B の情報支援等<br>・会場(施設B)の規模と料金                         | ・世界的不況等により会期短縮、総裁視察招聘し「簡素」と手づくり大会アピール<br>・J N T O 寄付金制度活用、K C B の支援                           | ・京都のネームバリューが決め手の 1 つ                                              | ・京大の研究者が会長だからと言って京都開催とは限らないが、有利ではある                                        | ・京都というブランドもあっただろうが、基本は委員構成や会議施設、運営計画が認められたこと                                |
| 4 準備期間   |             | ・初めての体験で不安。2 年半前からコンペ準備、7, 8 人の委員に仕事を割り振り<br>・K C B 紹介運営会社がよくやってくれた                  | ・約 3 年かけ準備。役所や地下鉄、警察との交渉に苦労した<br>・P C O が期待外れで事務局の負担大                                         | ・約 6 年前から国内関係者の合意獲得<br>・京都は 500 人規模の安い料金の会議施設が少ない。ホテルは高い          | ・3 年前に決まり 2 年かけて準備<br>・3,000 人規模なら施設Aしかない<br>・500~1,000 人規模の会議も増えている       | ・2007 年の 1 次 2 次選考を突破、誘致決定<br>・運営会社は普段から国際本部に対応している米国A社に委託                  |
| 5 総費用    |             | ・約 2,900 万円。参加費(3 万円)、学振、万博基金等から助成金、個人寄付等                                            | ・約 4 億円。参加費(av. 12 万円)ベース、展示出展費、自己資金、関連財団寄付等                                                  | ・約 4,000 万円。参加費(5 万円)、学会等の助成、企業からの寄付等                             | ・約 7,500 万円。参加費(1.3 万円)、製薬連等の寄付、助成、協賛セミナー等                                 | ・約 118 万米ドル(約 1 億円)。参加費(av7.5 万円)、8 財団 15 企業等の支援                            |
| 6 参加率    |             | ・550 名(33 カ国)は初。通常は 300 名程度                                                          | ・約 1,400 名。開催史上 2 番目の多さ。京都だったことも一因                                                            | ・約 600 名。これまで最高のパリの 550 名を抜き京都が 1 位に                              | ・約 3,000 名。例年と変わらない                                                        | ・2,128 名。2009 年の台北 1,700 名を上回った                                             |
| 7 満足・不満  | 会議施設        | ・いい雰囲気、リーズナブルな料金<br>・茶室のような京都らしい施設や雰囲気があればベスト                                        | ・思い通りの日程が無理でやむなく変更<br>・動線が分かりづらい                                                              | ・施設Aと迷っているうちに日が埋まった<br>・施設は今一つだがロケーションは良好<br>・職員の異動で、受付けた人が不在に    | ・施設使用料が総費用の 4 割(3,000 万円)<br>・名古屋なら同規模で半額と聞いた                              | ・1,000 人規模では施設Aしかない<br>・施設・設備はいいが料金が高い。1 時間しか使わないのに「午前中」単位                  |
|          | 宿泊施設        | ・施設として満足(主は JR 駅近辺の大型ホテル)<br>・展望レストラン貸切によるパーティは有難かった                                 | ・11 のホテルに分散(1,150 名)、管理大変<br>・朝食 7 時は会議時間に間に合わず<br>・外国新聞、外国放送未対応のホテルあり                        | ・旅行会社に任せましたが、大半が京都駅周辺のビジネスホテル<br>・繁華街に出かけやすかった                    | ・すべて旅行会社にまかせ、特に問題はなかった                                                     | ・宿泊やエクスカーシオンはB社に委託。豊富なプログラムだったようだ                                           |
|          | 案内・交通       | ・会場は徒歩圏内、シャトルバスもあった<br>・地図を作ってもらい重宝した                                                | ・市内の交通(乗り換え等)表示が悪い。関係団体は連携して考えてほしい                                                            | ・大半の利用ホテルが会議場まで徒歩圏内                                               | ・――                                                                        | ・――                                                                         |
|          | 食事・観光       | ・近くの SC は外国人に評判が良かった<br>・エクスカーシオンのメニュー豊富                                             | ・施設内レストランは品数少なく内容の割に値段が高い。持込料金も高くて驚いた                                                         | ・昼は近くの SC、若い人は市内のラーメン店を食べ歩いていた                                    | ・昔から昼食場所の問題がある                                                             | ・――                                                                         |
|          | その他         | ・予算さえあれば、会議場と宿泊が一緒の場所にしたい                                                            | ・寺 1 つ 1 つに写真使用の許可願ひ。皆が歓迎しているわけではないと認識                                                        | ・普通はコンタクトできない舞妓さんと呼ばれたのは有難かった                                     | ・富山などは会議開催の経済効果を見込んで支援金ほか大歓迎してくれる                                          | ・慣れていて、総じて対応は良かった                                                           |
| 8 参加者評価  |             | ・大好評。「次も京都で」の声多い。外国人への京都のブランド力を提示                                                    | ・「パーフェクト」と言ってくれた。今年の大会でも「京都のほうが良かった」と                                                         | ・大好評だった                                                           | ・特に不満は聞かなかった                                                               | ・「うまく組織だった会議運営」「楽しかった会議」、「京都をまた訪れたい」等                                       |
| 9 成果と課題  |             | ・助成金の決定の早期対応を<br>・京都市助成金の基準緩和を(参加人数)                                                 |                                                                                               | ・助成制度の認可の成否と金額の早期決定を期待                                            | ・他の大型学会は、以前はずっと京都だったが、集まりやすい東京に移ったとの事                                      | ・同じ講座の先生が再来年の国際会議は神戸と言っていた。補助金があるのが理由                                       |
| 10 その他   |             | ・参加費、人数等の概算に合わせた会議場紹介等の情報があれば助かる<br>・国際会議運営の辛さを痛感                                    | ・行政や市営交通機関が非協力的(地下鉄駅での案内表示要請、観光バス市有地駐車場の拒否)                                                   | ・地方の都市は京都とはひと桁違う額の補助金を出していると聞いた<br>・京都には安い中規模の会議施設が必要             | ・閑散期に施設料もホテル代も安い「サービス月間」としてはどうか<br>・主催者の条件を聞いて日程調整するとか対応するシステムがあればいい       | ・新たなグローバル会議の創設が決まり、数年後には世界展開になるらしい。日本開催の可能性もあり                              |

「京都市におけるM I C E実態調査」 ヒアリング調査まとめ (2)

| No        |       | 6                                                                                       | 7                                                                        | 8                                                                     | 9                                                                             | 10                                                                            |
|-----------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 会議名<br>項目 |       | 医歯薬学系会議 2                                                                               | 自然科学系会議 4                                                                | 医歯薬学系会議 3                                                             | 自然科学系会議 5                                                                     | 自然科学系会議 6                                                                     |
|           |       | 開催時期(日数)・会場                                                                             | 開催時期(日数)・会場                                                              | 開催時期(日数)・会場                                                           | 開催時期(日数)・会場                                                                   | 開催時期(日数)・会場                                                                   |
| 1 概要等     |       | ・ 毎年開催。各地域を巡回。京都は初<br>・ 10 年前、京大が幹事の時には神戸で開催。おそらく大きな会場が必要だったため<br>・ 理事会選挙で幹事(大学、開催地)を決定 | ・ 毎年 1 回、全国 7 支部の持ち回りで開催<br>・ 学会本部が支部を決めその地区の研究者個人に依頼。あとは各支部の実行委員会マターになる | ・ 毎年 1 回、全国 8 支部の巡回(ランダム)方式で開催<br>・ 裁量権のある学会理事会から各支部に開催を依頼、手を挙げればほぼ通る | ・ 3 年ごとに京都で開催される研究集会<br>・ 1979 年協会 60 周年を記念して研究者の国際交流を目的に創設。協会内の組織委員会によって企画運営 | ・ 国際協会が 3 年ごとに開催<br>・ ずっと欧州内で開催していたことに疑問の声が上がり、アジアの学会とも仲良くすべきこともあり初の欧州外で開催    |
| 2 京都決定経緯  |       | ・ 1 万人規模では開催地は京都、横浜、神戸くらい。コンペで 3 校の中から選出<br>・ 企画と「地元開催」の強みで圧勝                           | ・ 今回は〇〇先生に依頼。場所は初め大阪を当たったが空いておらず断念。神戸も補助金がありだいたい傾いた                      | ・ 関西支部と自分に会頭依頼あり。学会が課題とする「国際化」に向けての人材育成を主テーマに                         | ・ 創設当時の役員が京都でやると決定。詳しいいきさつは不明<br>・ 11 月第 2 週の平日 5 日間、場所も固定                    | ・ 協会の加盟団体である国内学会が 2006 年に指名を受けた。初の欧州外なら京都以外無理と判断                              |
| 3 決定要因    |       | ・ 「伝統と創意」というテーマと企画<br>・ 京都のブランド力もある<br>・ 施設 A ・ テント ・ 近接ホテルで確保                          | ・ 実行委員長が京大所属ということが最大の理由。ポジティブな理由から京都に決定したわけではない                          | ・ 京都を本拠としているし動きやすいので京都に。ただ準備委員会の大半は近畿一円から集まれる大阪で開催                    | ・ ——                                                                          | ・ 都市レベルでの誘致コンペになり、積極的なロビー活動で 1 国 1 票の票を集めた。<br>・ 観光スポットの集積が利点                 |
| 4 準備期間    |       | ・ 通常 3 年前に募集。テーマ等を決め、約 1 年かけて大学、企業等にロビー活動<br>・ 「安全」と「おもてなし」をモットーに                       | ・ 2 年前に決まり準備。実行委員会は京大中心に 24 名で構成。場所は早く押さえたが中身は 1 年前からテーマ決定等準備            | ・ 2 年前に決まって準備委を立ち上げ、シンポやワークショップのテーマ、スピーカー等は委員に委ねた                     | ・ 企画・構成や運営については組織委員会のコアメンバーが決定。3 年かけて応募論文審査や発表者依頼等を行う                         | ・ 3 年前から組織委員会を発足、会議運営会社の選定、HP 制作等を始めた。前年プログラム委員会を発足して内容を具体化                   |
| 5 総費用     |       | ・ 約 5 億円。約 1 割余り学会に返還。参加費(1.8 万円)、関連企業等から助成金等。学会は参加費の値下げも検討                             | ・ 約 2,500 万円。うち 1,100 万は国際会館に。参加費(7,000 円)が全体の 6 割、あとは企業からの協賛金等          | ・ 約 6,000 万円。正会員参加費(1.3 万)、薬業メーカーの協賛金等。懇親会費は別徴収                       | ・ 約 7,800 万円。一般会員 5 万円、学生 2 万円。企業の寄付や助成金もあるが、メインは参加費と自主財源で十分賄える               | ・ 1 億 900 万円。一般会員 3.5 万円、学生 1 万円。自己負担金 7,000 万円、展示会等収入 1,000 万円、助成金 1,300 万円等 |
| 6 参加率     |       | ・ 1 万 240 名(海外 15 カ国 152 名)。通常の 8,000 人からすれば参加率は高い                                      | ・ 約 1,650 名。海外 15 名は招待者で、国内大学等に所属外国人は約 100 名                             | ・ 約 3,300 名。2,500 名を損益分岐点と見ていた。海外招待者は約 20 名(台・韓)                      | ・ 約 1,000 名。うち海外は 300 名。毎年少しずつ増加中                                             | ・ 登録者 1,819 名。海外は 52 カ国 817 名(一般)。総参加者数は 2,041 名                              |
| 7 満足・不満   | 会議施設  | ・ 建物が複雑で円滑な動線の設定が困難。多くの案内看板が必要<br>・ テントは自由なレイアウトが困難。高さも足りない                             | ・ 参加者の評判は良かったが、料金が<br>・ 個人的には建物は古いし臭いも気になる。迷路のようで初めての人は分かりにくい            | ・ 参加者の評判は良かった。料金が高いとは思わない。ただ迷路のようで迷子になる人がいた                           | ・ 京都駅近くで大変便利。会期が長く近畿の人が日帰りしたり、抜け出して大学や職場に戻るのも便利<br>・ ポスター会場のレイアウトに四苦八苦        | ・ 古くて各部屋は狭く、動線も良くない。企業展示スペースとポスターセッションのスペースが足りず苦労<br>・ 企業から苦情が出た              |
|           | 宿泊施設  | ・ VIP 用の近接ホテルの部屋数が足りず困った。他の大型ホテルと振り分けた<br>・ VIP150 人の部屋割りをして嫌がられた                       | ・ 海外からの招待者のみ旅行会社に押さえてもらった。特に問題なし                                         | ・ 旅行代理店系の運営会社がうまく運営。特に問題なし                                            | ・ 会場となっているホテルに泊まる人は少なく、市内のホテルに分散して宿泊                                          | ・ VIP を近くのホテルに泊め、バンケット会場としても地下の部屋を使用。手狭でキャパシティに問題                             |
|           | 案内・交通 | ・ 3 会場間を巡回シャトルバス運行、好評                                                                   | ・ ——                                                                     | ・ ——                                                                  | ・ 京都のまちの構造は分かりやすく不便はない                                                        | ・ ——                                                                          |
|           | 食事・観光 | ・ 弁当のメニュー決定に際し 3 回試食してやっと決定                                                             | ・ 昼食は高くても内容もこれと言ったものがない。かと言って周りに食べる所がない                                  | ・ 施設 A の弁当だったが特に何も思わなかった                                              | ・ 京都駅に出やすいので皆駅に行き昼食<br>・ いつも軽めのエクスカージョンを実施                                    | ・ 企業がスポンサーになりランチョンをやるのが通例で困ることはなかった                                           |
|           | その他   | ・ ——                                                                                    | ・ 会議施設は融通の利かない対応だった                                                      | ・ 舞妓さんは関東の人たちは喜んでいた                                                   | ・ ——                                                                          | ・ 田中耕一博士の講演が一般の人を集めた                                                          |
| 8 参加者評価   |       | ・ 高い評価。企画もホスピタリティの精神も受けた。「将来に語り継がれる会議」と                                                 | ・ 「いいね」と言う人が多かった。前 2 回が大学だったからそう言うのではないか                                 | ・ 皆良い評価をしてくれた。大成功だったと思う                                               | ・ 特に聞いてない。京都というのは決まっているし観光地でいいのではないか                                          | ・ 大変評判が良かった。そのおかげで今後は欧州と欧州外が交互に開催することに                                        |
| 9 成果と課題   |       | ・ 施設 A と向かいのホテルに地下通路を                                                                   | ・ もっと早く会場は押さえないと…と反省<br>・ 11 月は宿が取れないのがネック                               | ・ 関西支部が会議の準備と一緒にすることにより 1 つになった                                       | ・ 国内でやる数少ない国際会議で、会場のキャパと増え続ける参加者が悩み                                           | ・ 日本の研究者、学生が集まることができた。ただ 9 月はまだ暑く、大学も始まる                                      |
| 10 その他    |       | ・ 本学会は今後は 3,000 以上のホールを持つ所で、という内規ができた<br>・ 2016 年 6 月リハビリ学会を京都で計画                       | ・ 大きな会議はやはり P C O が必要。何度も会場に足を運んだりできないので助かる                              | ・ いずれ国際学会が新設され実行委員長になった時には、また京都でやりたい                                  | ・ 今後も京都でやり続ける。会議の名称に KYOTO が入っている                                             | ・ 京都には理化学系企業が多く、工場見学等をソーシャルプログラムとして組み込みたいが、口添え等をお願いしたい                        |



「京都市におけるM I C E実態調査」 ヒアリング調査まとめ (3)

| No          |       | 11                                                                           | 12                                                                         | 13                                                                     | 14                                                                   | 15                                                                        |
|-------------|-------|------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 会議名<br>項目   |       | 自然科学系会議 7                                                                    | 自然科学系会議 8                                                                  | 医歯薬学系会議 4                                                              | 医歯薬学系会議 5                                                            | 医歯薬学系会議 6                                                                 |
| 開催時期(日数)・会場 |       | 2012 年 11 月⑤ 施設 A                                                            | 2012 年 7 月⑥ 施設 B                                                           | 2012 年 6 月③ 施設 A                                                       | 2012 年 10 月② 施設 D                                                    | 2014 年 1 月③ 施設 A                                                          |
| 1 概要等       |       | ・国際協定の 1 プロジェクトが 2 年ごとに欧米アジア 3 地区持ち回りで開催。日本は 3 回目、いずれも本協会が主催。前回 2002 年も京都で開催 | ・3 年 1 回欧・北米・アジアの主要国持ち回りで開催。日本は 3 回目で前回は横浜<br>・毎回会期中に開催の大会運営委員会で正式決定(6 年前) | ・欧米を含めた本テーマに関する国際会議を世界で初めて日本・京都で開催<br>・かねてより国内研究者は、本場である欧米との交流機会を求めている | ・1980 年以来続く年会。<br>・本学会は医学者中心に異分野の研究者で構成されるが、その中心メンバーから推薦されて会長に指名を受ける | ・1978 年の学会創設以来毎年開催。毎年 1 月頃に開催される<br>・本学会は、医師・医学研究者を中心に医療関係者含めて 4,500 名に及ぶ |
| 2 京都決定経緯    |       | ・事務局から打診があり、すぐに決定。機構理事長が施設 A の評議員であることも理由だった                                 | ・国内学会で意見を固め誘致を決定。伊-英の次のアジア開催枠を狙う。前回は横浜だったので京都に                             | ・2001 年にも日韓の会議を京都でやったが、外国人研究者には京都でという希望が多い                             | ・自分が会長に指名され、地元京都に決めた。10 年前以来の京都で、その時の会長は施設 A でやった                    | ・開催都市は会長指名を受けた先生の意向で決定。来年は東京の大学の会長も京都、再来年の福岡の医師は地元福岡で開催                   |
| 3 決定要因      |       | ・本協会が主催する以上京都以外にない。遠いと動く時間も手間もかかる<br>・理事長が施設 A の評議員というご縁も                    | ・開催委員長と体制、開催都市で決まる。競合国はあったようだが、日本・京都に決定                                    | ・京都なら絶対参加者が増え、奥さんも同伴で来る<br>・自分の一存で決定                                   | ・京都では施設に限られる。会議施設をホテルにしたのは外国人が好むから<br>・料金を安くするため開催曜日を変更した            | ・全国規模の総会で全国からアクセスのいい都市となると東京か関西になるし、参加者には京都好きが多い                          |
| 4 準備期間      |       | ・2009 年秋から準備し、2010 年初め会議運営会社の企画コンペ実施、秋に準備室立ち上げ本格稼働。正味 2 年半かけ準備               | ・7, 8 年。実際の準備は約 2 年。会議運営会社は今までで一番満足した。予算に応じたアドバイス、諸事対応が良かった                | ・2 年ほど。企業に協賛金をお願いするのに苦労。私がやる時は企画運営会社は決めている                             | ・3 年ほど前から主要メンバーの日程調整等開始。実際の準備は 1 年ほど<br>・会議運営会社は社名でなく担当者が問題          | ・会議の中味の準備は 1 年半から 2 年ほど。発表抄録の査読には時間がかかる<br>・会議運営会社選定の理由は聞いていない            |
| 5 総費用       |       | ・総額 2 億円。参加費一般 11 万円、学生 4.5 万円。企業等から助成金、寄付、出展料等。震災前に押さえておいた                  | ・約 3,000 万円。参加費は一般 7 万円、学生 4 万円。助成財団等に応募したが大半が不採用、額も小さくなった                 | ・約 4,500 万円。参加費 2.5 万円と安くして人数を集めようとした。赤字は出なかったが 1,000 万くらいは持ち出しに       | ・約 4,000 万円。参加費は医者だけでなく医療関係者に配慮し 1 万円に設定。医学系研究者の仲介で民間企業に助成を依頼        | ・不明。現在 P C O が集計中。参加費は会員 2 万円、非会員 2.5 万円、研修医・学生は無料                        |
| 6 参加率       |       | ・1,293 名。海外 48 カ国 947 名。施設 A は国際的重要議定書締結の場所で開催率高                             | ・計 484 名。うち海外 21 カ国 176 名。予想を大きく上回った                                       | ・約 800 名。うち海外 26 カ国約 200 名                                             | ・1,348 名。うち海外からは招聘の約 10 名のみ                                          | ・約 3,300 名以上。京都だからいつもより多かったと思う                                            |
| 7 満足・不満     | 会議施設  | ・千数百人規模の会議には最適の施設<br>・当初別棟まで使う予定だったが 2 年前にキャンセルしたらキャンセル料を課せられた               | ・我々の規模で大ホールも分科会もポスター会場もという会議になると、京都では施設に限られる。選択肢がない<br>・交通の便が良く京都駅からも歩ける   | ・特に問題はなかった。地下鉄が通っていて便利だと思う<br>・施設内の茶室でアロマセラピーと通じる香道体験をやり、大変好評だった       | ・すべてをコンパクトにまとめることができ大変満足<br>・支配人以下スタッフのテキパキした対応に好感                   | ・いい施設・設備だと思う<br>・スタッフには大変良くしていただいた。懇親会ほかの対応には感激している                       |
|             | 宿泊施設  | ・5 つ星からユースホステルクラスまであったが、3 年前から確保したので問題なし<br>・会場近くのホテルの店が夜早いと不満               | ・京都駅周辺に固まっていた。地下鉄でどこへでも行けるし大変便利                                            | ・地下鉄沿線に分散して泊まった。隣のホテルは高い。外国人研究者は宿泊費にお金をかけない。安い日本式旅館もいた                 | ・限られた外国人のみ会場のあるホテルに泊まり、他は京都駅周辺に分散して泊まった                              | ・特にトラブルは聞いていない                                                            |
|             | 案内・交通 | ・主要な地下鉄駅にはサインとともに誘導員を配置。トラブル、苦情はなかった                                         | ・――                                                                        | ・――                                                                    | ・地の利、どこへでも行ける                                                        | ・――                                                                       |
|             | 食事・観光 | ・昼食(ビュッフェ)会場にも誘導係を配置<br>・舞妓の京舞や鏡開きに外国人は大喜び                                   | ・大半は京都駅まで出向き昼食<br>・見るものがたくさんあるのが京都の強み                                      | ・ランチョンセミナーで特に問題なし<br>・VIP を貴船の川床に招待、大満足                                | ・ランチョンセミナーで問題はなかった<br>・外国人は自分たちで好きなように観光                             | ・すべてランチョンセミナーで問題なし                                                        |
|             | その他   | ・地元府・市・京商・K C Bからも後援                                                         | ・ホテル屋上ビアガーデンは外国人に好評                                                        | ・大手新聞社後援の市民公開講座は大盛況                                                    | ・市民公開講座も評判が良かった                                                      | ・――                                                                       |
| 8 参加者評価     |       | ・国際事務局がアンケートを取ったら 9 割近くが良かったという感想だった                                         | ・全体に喜んでもらえた。食事、ビアガーデン、鏡開き・舞妓さん                                             | ・好評で「またやろう」と言って来るが「お金を集めるのが大変」と返事している                                  | ・総じていい評価だった。京都の町も会議場も良かったのだと思う                                       | ・おおいに満足していた。会長もプログラムが「Nature」に掲載され大満足                                     |
| 9 成果と課題     |       | ・京都のホテルに大人数のパーティ会場がないのは問題                                                    | ・他都市の助成金の話は聞いていたが、京都市の制度も知っておくべきだった                                        | ・外国人に京都の良さを味わってほしいので、ぜひ便宜を図ってもらいたい                                     | ・他都市には 2 回連続開催だと割引制度があると聞いた。京都も設けてはどうか                               | ・今年のいい結果が来年も継承されることを希望                                                    |
| 10 その他      |       | ・コンファレンスディナーは立食にしたものの、1,300 人が入り切らず苦情が出たのが残念                                 | ・――                                                                        | ・次回の国際会議の日程は決まっていないが、オリンピック並みに 4 年後くらいにやりたいと思う                         |                                                                      | ・1 人の先生が利用されて知ったが、京都駅とホテル間の手荷物サービスは、もっとアナウンスすべき                           |

「京都市におけるM I C E実態調査」 ヒアリング調査まとめ（4）

| No          |       | 16                                                                                                                            | 17                                                                                                                              |
|-------------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会議名<br>項目   |       | 科学技術系会議 1                                                                                                                     | 科学技術系会議 2                                                                                                                       |
| 開催時期(日数)・会場 |       | 2012 年 12 月④ 施設 A                                                                                                             | 2013 年 10 月③ 施設 A                                                                                                               |
| 1 概要等       |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・米・国際情報ディスプレイ学会が主催して毎年各国で開催。日本支部として対応</li> <li>・1年ごとに各国持ち回りで開催するアジア展示会と同時開催</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2004年に創設され京都に定着。毎年10月第1週の日・月・火の3日間</li> <li>・世界のVIPで構成されるメンバーシップ制の国際会議</li> </ul>       |
| 2 京都決定経緯    |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しい経緯は聞いていないが、参加者に希望の開催都市についてのアンケートにより京都が圧倒的に多かったらしい</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しく聞いていないが、東京だとメンバーが他の会議に出たりするので隔離するため、夫人同伴で来られるため等</li> </ul>                          |
| 3 決定要因      |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果が1つの要因と、日本支部の委員には地方の人が多いため、京都が人気ということなのではないか</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・――</li> </ul>                                                                           |
| 4 準備期間      |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップとは言え、研究の口頭発表、シンポジウム等、普通の学会と構成は変わらない。1年以上前から準備</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年終われば報告をまとめる時期と重なって次の年の準備が始まる</li> </ul>                                               |
| 5 総費用       |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・総額 5,000～6,000 万円。詳しい資料は手許にない</li> </ul>                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・――。メンバーシップ企業・団体からの賛助金や寄付がベース</li> </ul>                                                 |
| 6 参加率       |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・約 1,200 名。業界不況等で参加者が減るなか、例年の数は京都でキープできた</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・約 1,100 名。100 の国・地域・国際機関からの参加。日本人は2割を超えない原則</li> </ul>                                  |
| 7 満足・不満     | 会議施設  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いい施設・設備だが料金が高い</li> <li>・いろんなサインを用意する必要。案内表示の英語表記も徹底を希望</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・改修工事で施設内最大のホールが使えずこれまで通りの使い方ができるかどうか</li> <li>・幕張や東京も考えたが、会議名と「京都」は同義語になっている</li> </ul> |
|             | 宿泊施設  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・――</li> </ul>                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・――</li> </ul>                                                                           |
|             | 案内・交通 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・――</li> </ul>                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・――</li> </ul>                                                                           |
|             | 食事・観光 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランチョンセミナーがなかったので事前に周辺を調査したが、不便だと痛感</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・――</li> </ul>                                                                           |
|             | その他   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内の茶室でのお茶会は大好評</li> </ul>                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・――</li> </ul>                                                                           |
| 8 参加者評価     |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に海外の参加者は満足したと思う</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者は毎回満足して帰る。「来年も京都でまた会おう」と言って別れる</li> </ul>                                            |
| 9 成果と課題     |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の規模では経費面で苦しく、今後はもう少しコンパクトにやらざるを得ない</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・こんな素晴らしい会議を今まで宣伝・広報してこなかったことを反省</li> </ul>                                              |
| 10 その他      |       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年は新潟だが1,000万近い助成金は有難い。去年の札幌もそれなりの支援があった。京都ももう少し助成増額を</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・――</li> </ul>                                                                           |

## Ⅱ 会議参加者アンケート調査

### 1 調査の概要

- ①調査目的 京都市で開催された国際会議参加者の宿泊・滞在の実態，会議及び京都観光に対する評価を把握し，国際会議の経済効果分析の基礎資料とすることを目的とする。
- ②調査項目 (1) 京都への来訪・滞在状況について（来訪回数，利用交通機関，宿泊・滞在日数，宿泊場所・宿泊費，滞在費）  
(2) 参加会議について（会議内容の評価・会議施設の印象）  
(3) 京都観光について（市内観光の有無，印象に残った観光地，京都で気に入ったもの，再訪意向）
- ③調査対象 国立京都国際会館において開催された下記の5つの国際会議参加者  
(1) 科学技術系会議 1(以下，科学技術系 1) ※エキスカッション参加の外国人のみ  
(2) 医歯薬学系会議 1(以下，医歯薬学系 1)  
(3) 自然科学系会議 1(以下，自然科学系 1)  
(4) 自然科学系会議 2(以下，自然科学系 2)  
(5) 医歯薬学系会議 2(以下，医歯薬学系 2)
- ④調査時期 2013 年 10 月・11 月・2014 年 1 月の 10 日間

| 会議別     | 会 期         | 調査日数 |
|---------|-------------|------|
| 科学技術系 1 | 2013 年 10 月 | 2 日間 |
| 医歯薬学系 1 | 2013 年 10 月 | 2 日間 |
| 自然科学系 1 | 2013 年 10 月 | 2 日間 |
| 自然科学系 2 | 2013 年 11 月 | 2 日間 |
| 医歯薬学系 2 | 2014 年 1 月  | 2 日間 |

- ⑤調査方法 会場周辺で調査員が調査票を手渡し，回答者が記入後その場で回収

- ⑥回収結果 有効回答数 882 人(うち外国人 143 人)

( )内は外国人，内数

| 会議別     | 参加予定者数 (人)   | 回答者数 (人)  |
|---------|--------------|-----------|
| 科学技術系 1 | 800 (550)    | 34 (34)   |
| 医歯薬学系 1 | 8,100 (200)  | 244 ( 8)  |
| 自然科学系 1 | 1,500 (15)   | 228 (42)  |
| 自然科学系 2 | 290 (120)    | 136 (55)  |
| 医歯薬学系 2 | 4,000 (30)   | 240 ( 4)  |
| 計       | 14,690 (915) | 882 (143) |

※参加予定者数は「会議開催カレンダー」((公財)京都文化交流コンベンションビューロー，2014 年 1 月 28 日版)による

## 2 集計結果

全体、日本人/外国人別、会議別の集計結果は以下のとおり。なお、調査対象 5 会議のうち科学技術系 1 は回答数が少ないため会議別集計を割愛した（非掲載分は集計表参照）。

### （１）回答者の構成（問 1）

#### ①性別（図表Ⅱ-1）

- 全体の男女比は約 7:3 である。
- 医歯薬学系 1 は男女比がほぼ均衡しているが、自然科学系 2 は女性が 9% と少ない。

#### ②国籍（図表Ⅱ-2、Ⅱ-3）

- 全体で外国人の占める割合は 16% である。国籍別では、米国が最も多く、中国、インドの順となっている。地域別では、アジアが 44% を占める。
- 医歯薬学系 1、医歯薬学系 2 は外国人比率が 5% 以下であるのに対して、自然科学系 2 は 40%、自然科学系 1 は 18% と外国人比率が高い。

※日本語の読み書きが困難な参加者に対しては、国籍にかかわらず英語の質問紙を使用した。国籍の回答が得られない場合、日本語による回答記入に支障がなければ日本人とみなして集計している。

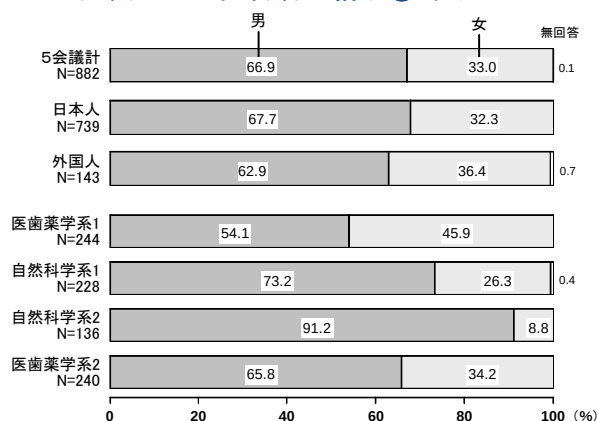
#### ③居住地（図表Ⅱ-4、Ⅱ-5）

- 全体では、地域別で南関東（4 都県）が 31%、近畿（6 府県）が 22% を占めている。都道府県別では東京が最も多く、兵庫、神奈川、大阪、愛知の順となっている。京都市内居住者は 2.4% (21 人) である。
- 海外居住者は 12% であり、外国人参加者の約 4 分の 1 は国内居住者である。
- 会議別では、近畿が約 3 割を占める自然科学系 1 を除くと、南関東が最も多い。南関東と近畿以外の都道府県では、医歯薬学系 1 で北海道、自然科学系 1 で愛知、福岡、宮城、石川、自然科学系 2 で栃木、医歯薬学系 2 で愛知、静岡、北海道、広島が多くなっている。

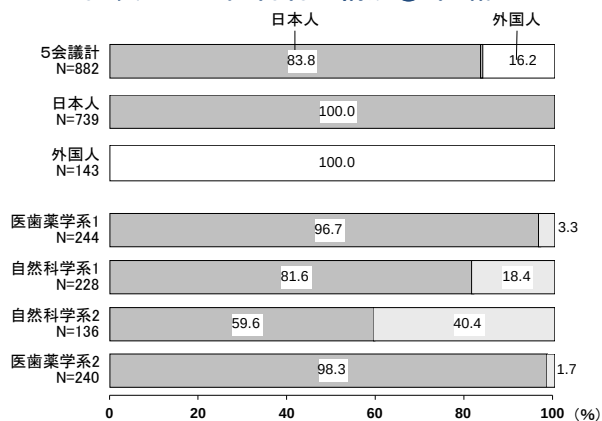
#### ④年代（図表Ⅱ-6）

- 全体では、30 代が 31%、20 代と 40 代がそれぞれ 22% を占める。外国人は 50 代が 26% と最も多い。
- 会議別では、自然科学系 1 で 20 代が 47%、30 代が 28% と若年層比率が高いほか、医歯薬学系 1 で 30 代の比率が 42% と高い。

図表Ⅱ-1 回答者の構成① 性別



図表Ⅱ-2 回答者の構成② 国籍



図表Ⅱ-3 外国人回答者の国籍・国別内訳

単位:人

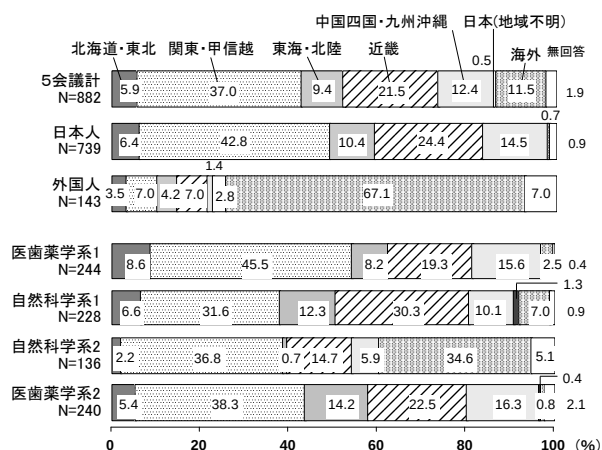
| 地域          | 国籍      | 自然科学系1    | 医歯薬学系1   | 自然科学系1    | 自然科学系2    | 医歯薬学系2   | 5会議計       | 構成比%         |
|-------------|---------|-----------|----------|-----------|-----------|----------|------------|--------------|
| <b>アジア</b>  |         | <b>5</b>  | <b>1</b> | <b>21</b> | <b>34</b> | <b>2</b> | <b>63</b>  | <b>44.1</b>  |
| アジア         | 中国      | -         | -        | 4         | 8         | 1        | 13         | 9.1          |
|             | インド     | -         | -        | 7         | 4         | -        | 11         | 7.7          |
|             | タイ      | 2         | -        | -         | 4         | -        | 6          | 4.2          |
|             | マレーシア   | -         | 1        | -         | 5         | -        | 6          | 4.2          |
|             | 台湾      | -         | -        | 2         | 4         | -        | 6          | 4.2          |
|             | インドネシア  | 1         | -        | -         | 4         | -        | 5          | 3.5          |
|             | バングラデシュ | -         | -        | 4         | -         | -        | 4          | 2.8          |
|             | ベトナム    | -         | -        | 1         | 3         | -        | 4          | 2.8          |
|             | 韓国      | 2         | -        | 1         | -         | -        | 3          | 2.1          |
|             | ネパール    | -         | -        | 2         | -         | -        | 2          | 1.4          |
|             | パキスタン   | -         | -        | -         | 1         | -        | 1          | 0.7          |
|             | フィリピン   | -         | -        | -         | 1         | 1        | 2          | 1.4          |
| <b>北米</b>   |         | <b>7</b>  | <b>1</b> | <b>4</b>  | <b>6</b>  | <b>1</b> | <b>19</b>  | <b>13.3</b>  |
| 北米          | 米国      | 3         | 1        | 4         | 5         | -        | 13         | 9.1          |
|             | カナダ     | 4         | -        | -         | 1         | 1        | 6          | 4.2          |
| <b>中南米</b>  |         | <b>-</b>  | <b>-</b> | <b>2</b>  | <b>1</b>  | <b>-</b> | <b>3</b>   | <b>2.1</b>   |
| 中南米         | コロンビア   | -         | -        | 1         | -         | -        | 1          | 0.7          |
|             | ペルー     | -         | -        | 1         | -         | -        | 1          | 0.7          |
|             | メキシコ    | -         | -        | -         | 1         | -        | 1          | 0.7          |
| <b>欧州</b>   |         | <b>13</b> | <b>5</b> | <b>12</b> | <b>6</b>  | <b>1</b> | <b>37</b>  | <b>25.9</b>  |
| 欧州          | ドイツ     | 2         | 1        | 4         | -         | -        | 7          | 4.9          |
|             | フランス    | 1         | -        | 4         | 1         | -        | 6          | 4.2          |
|             | 英国      | 2         | -        | 1         | 2         | -        | 5          | 3.5          |
|             | ポーランド   | 2         | -        | 1         | -         | -        | 3          | 2.1          |
|             | ポルトガル   | 3         | -        | -         | -         | -        | 3          | 2.1          |
|             | スペイン    | -         | -        | 1         | 1         | -        | 2          | 1.4          |
|             | ベルギー    | -         | 1        | 1         | -         | 1        | 3          | 2.1          |
|             | ロシア     | 2         | -        | -         | -         | -        | 2          | 1.4          |
|             | ウクライナ   | -         | 1        | -         | -         | -        | 1          | 0.7          |
|             | オーストリア  | -         | 1        | -         | -         | -        | 1          | 0.7          |
|             | オランダ    | -         | -        | -         | 1         | -        | 1          | 0.7          |
|             | ギリシャ    | -         | 1        | -         | -         | -        | 1          | 0.7          |
|             | スイス     | -         | -        | -         | 1         | -        | 1          | 0.7          |
|             | ハンガリー   | 1         | -        | -         | -         | -        | 1          | 0.7          |
| <b>大洋州</b>  |         | <b>1</b>  | <b>-</b> | <b>2</b>  | <b>2</b>  | <b>-</b> | <b>5</b>   | <b>3.5</b>   |
| 大洋州         | オーストラリア | 1         | -        | 2         | 2         | -        | 5          | 3.5          |
|             |         |           |          |           |           |          |            |              |
| <b>中東</b>   |         | <b>2</b>  | <b>-</b> | <b>-</b>  | <b>-</b>  | <b>-</b> | <b>2</b>   | <b>1.4</b>   |
| 中東          | イスラエル   | 1         | -        | -         | -         | -        | 1          | 0.7          |
|             | カザフスタン  | 1         | -        | -         | -         | -        | 1          | 0.7          |
| <b>アフリカ</b> |         | <b>1</b>  | <b>-</b> | <b>-</b>  | <b>1</b>  | <b>-</b> | <b>2</b>   | <b>1.4</b>   |
| アフリカ        | リビア     | -         | -        | -         | 1         | -        | 1          | 0.7          |
|             | 南アフリカ   | 1         | -        | -         | -         | -        | 1          | 0.7          |
| <b>不明</b>   |         | <b>5</b>  | <b>1</b> | <b>1</b>  | <b>5</b>  | <b>-</b> | <b>12</b>  | <b>8.4</b>   |
| <b>計</b>    |         | <b>34</b> | <b>8</b> | <b>42</b> | <b>55</b> | <b>4</b> | <b>143</b> | <b>100.0</b> |

図表Ⅱ-4 回答者の居住地・都道府県別内訳

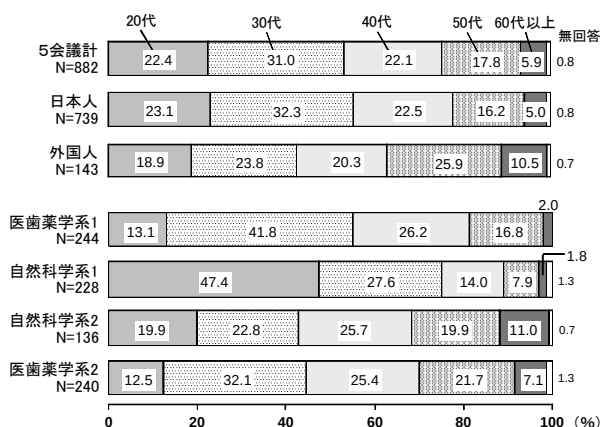
単位:人, ( )内は外国人, 内数

| 地域別  | 都道府県 | 自然科学系<br>1 | 医歯薬学系<br>1 | 自然科学系<br>1 | 自然科学系<br>2 | 医歯薬学系<br>2 | 5 会議<br>計 | 構成比<br>% |
|------|------|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|----------|
| 北海道  |      | -          | 9          | (2) 6      | (1) 3      | 8          | (3) 26    | 2.9      |
| 東北   |      | -          | 12         | (2) 9      | -          | 5          | (2) 26    | 2.9      |
|      | 青森   | -          | 1          | -          | -          | 1          | 2         | 0.2      |
|      | 秋田   | -          | 3          | -          | -          | -          | 3         | 0.3      |
|      | 岩手   | -          | -          | -          | -          | 1          | 1         | 0.1      |
|      | 宮城   | -          | 2          | (2) 9      | -          | 2          | (2) 13    | 1.5      |
|      | 山形   | -          | 3          | -          | -          | -          | 3         | 0.3      |
|      | 福島   | -          | 3          | -          | -          | 1          | 4         | 0.5      |
| 北関東  |      | -          | 9          | 8          | 8          | 9          | 34        | 3.9      |
|      | 茨城   | -          | 5          | 5          | 3          | 1          | 14        | 1.6      |
|      | 栃木   | -          | 1          | 2          | 5          | 4          | 12        | 1.4      |
|      | 群馬   | -          | 3          | 1          | -          | 4          | 8         | 0.9      |
| 南関東  |      | (1) 1      | (1) 91     | (5) 63     | (2) 42     | (1) 75     | (10) 272  | 30.8     |
|      | 埼玉   | -          | 9          | (1) 7      | 7          | 5          | (1) 28    | 3.2      |
|      | 東京   | (1) 1      | (1) 51     | (4) 34     | (2) 12     | 48         | (8) 146   | 16.6     |
|      | 千葉   | -          | 12         | 9          | 9          | (1) 3      | (1) 33    | 3.7      |
|      | 神奈川  | -          | 19         | 13         | 14         | 19         | 65        | 7.4      |
| 甲信越  |      | -          | 11         | 1          | -          | 8          | 20        | 2.3      |
|      | 長野   | -          | 4          | -          | -          | 5          | 9         | 1.0      |
|      | 山梨   | -          | 1          | -          | -          | 1          | 2         | 0.2      |
|      | 新潟   | -          | 6          | 1          | -          | 2          | 9         | 1.0      |
| 北陸   |      | -          | 3          | (3) 9      | -          | 3          | (3) 15    | 1.7      |
|      | 富山   | -          | 1          | -          | -          | 1          | 2         | 0.2      |
|      | 石川   | -          | 2          | (3) 8      | -          | 2          | (3) 12    | 1.4      |
|      | 福井   | -          | -          | 1          | -          | -          | 1         | 0.1      |
| 東海   |      | -          | 17         | (3) 19     | 1          | 31         | (3) 68    | 7.7      |
|      | 静岡   | -          | 6          | (1) 3      | -          | 9          | (1) 18    | 2.0      |
|      | 愛知   | -          | 6          | (2) 16     | -          | 18         | (2) 40    | 4.5      |
|      | 岐阜   | -          | 4          | -          | 1          | 1          | 6         | 0.7      |
|      | 三重   | -          | 1          | -          | -          | 3          | 4         | 0.5      |
| 近畿   |      | -          | (1) 47     | (8) 69     | (1) 20     | 55         | (10) 190  | 21.5     |
|      | 滋賀   | -          | 2          | 6          | 1          | 7          | 16        | 1.8      |
|      | 京都   | -          | 6          | (3) 11     | (1) 3      | 7          | (4) 27    | 3.1      |
|      | 大阪   | -          | 13         | (1) 23     | 8          | 16         | (1) 60    | 6.8      |
|      | 兵庫   | -          | (1) 21     | (3) 23     | 6          | 19         | (4) 69    | 7.8      |
|      | 奈良   | -          | 4          | (1) 5      | 2          | 5          | (1) 16    | 1.8      |
|      | 和歌山  | -          | 1          | 1          | -          | -          | 2         | 0.2      |
| 中国   |      | -          | 12         | 6          | 3          | 18         | 39        | 4.4      |
|      | 岡山   | -          | 5          | 2          | -          | 4          | 11        | 1.2      |
|      | 広島   | -          | 4          | 1          | 2          | 8          | 15        | 1.7      |
|      | 島根   | -          | -          | -          | -          | 1          | 1         | 0.1      |
|      | 鳥取   | -          | -          | 2          | -          | -          | 2         | 0.2      |
|      | 山口   | -          | 3          | 1          | 1          | 5          | 10        | 1.1      |
| 四国   |      | -          | 2          | 1          | -          | 12         | 15        | 1.7      |
|      | 徳島   | -          | 1          | 1          | -          | 3          | 5         | 0.6      |
|      | 香川   | -          | 1          | -          | -          | 6          | 7         | 0.8      |
|      | 愛媛   | -          | -          | -          | -          | 3          | 3         | 0.3      |
|      | 高知   | -          | -          | -          | -          | -          | -         | -        |
| 九州沖縄 |      | (1) 1      | 24         | (1) 16     | 5          | 8          | (2) 55    | 6.2      |
|      | 福岡   | -          | 5          | (1) 12     | 4          | 4          | (1) 25    | 2.8      |
|      | 大分   | -          | 1          | -          | -          | 1          | 2         | 0.2      |
|      | 長崎   | -          | 4          | 1          | 1          | -          | 6         | 0.7      |
|      | 佐賀   | -          | 3          | 1          | -          | 1          | 5         | 0.6      |
|      | 熊本   | -          | 2          | -          | -          | 2          | 4         | 0.5      |
|      | 宮崎   | -          | 1          | 2          | -          | 1          | 4         | 0.5      |
|      | 鹿児島  | -          | 6          | -          | -          | -          | 6         | 0.7      |
|      | 沖縄   | 1          | 2          | -          | -          | -          | (1) 3     | 0.3      |
| 国内不明 |      | -          | -          | (3) 3      | -          | (1) 1      | (4) 4     | 0.5      |
| 海外   |      | (30) 30    | (6) 6      | (14) 16    | (44) 47    | (2) 2      | (96) 101  | 11.5     |
| 無回答  |      | (2) 2      | 1          | (1) 2      | (7) 7      | 5          | (10) 17   | 1.9      |
| 計    |      | (34) 34    | (8) 244    | (42) 228   | (55) 136   | (4) 240    | (143) 882 | 100.0    |

図表Ⅱ-5 回答者の構成③ 居住地



図表Ⅱ-6 回答者の構成④ 年代



## (2) 京都への来訪・滞在状況について (問 2~6)

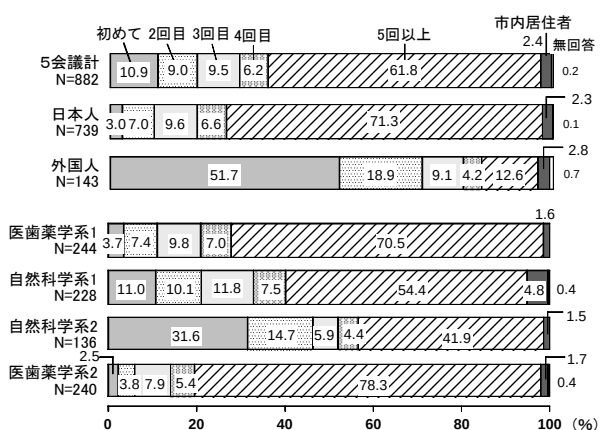
### ①来訪回数 (問 2, 図表Ⅱ-7)

日本人の約7割は5回以上の来訪経験あり。外国人の約半数は初めての来訪

- 京都への来訪回数について「初めて/2回目/3回目/4回目/5回以上」の5択で尋ねたところ、全体では62%が5回以上の来訪経験があり、初めては11%であった。なお、40代以上で7割以上が5回以上の来訪経験があるのに対して、30代は62%，20代は40%と年齢層が下がるに従い高頻度来訪者の割合が少なくなる。
- 日本人の71%は5回以上の来訪経験があり、10%が初めてもしくは2回目の来訪である。外国人の52%は初めての来訪であり、5回以上の来訪経験者は13%である。
- 会議別では、5回以上の来訪経験者が医歯薬学系1と医歯薬学系2で7割を超えているのに対して、自然科学系1は約半数、自然科学系2は約4割で、外国人比率や年代構成を反映する結果となっている。

図表Ⅱ-7 来訪回数

(問 2. あなたが京都に来られるのは何回目ですか。)





## ②利用交通機関(問 3, 図表Ⅱ-8)

- 京都市まで来るために利用した交通機関について、代表的な 7 つの交通機関を示して複数選択により尋ねた。当然ながら居住地によって利用状況が異なる。関東及び中国では新幹線の利用率が約 9 割と圧倒的に高く、東海・四国・九州沖縄も約 7 割が新幹線を使用している。北海道・東北では飛行機、甲信越と北陸では J R と自家用車、近畿では J R と私鉄の利用率が高い。また、飛行機利用者はリムジンバスやタクシーの使用率が高い。
- 海外居住者については、飛行機 65%、J R 40%、新幹線 37%であった。飛行機の利用率が低い、当該会議以外の所用と合わせて来日し長期間滞在している場合や、京都市に来る前に国内の他都市を経由している場合などは、移動の起点をどこに設定するかにより来日時の交通手段が含まれていないためと考えられる。

**図表Ⅱ-8 利用交通機関（居住地別）**（問 3. 京都市まで来るのに利用された交通機関は何ですか。）

単位：回答者数に対する構成比%，全体より高い項目及び居住地域別で最も高い項目に網掛け

| 居住地域別     | 回答者数<br>(人) | 飛行機  | 新幹線  | JR   | 私鉄   | ツアー<br>バス | タクシー | 自家用車 | その他  |
|-----------|-------------|------|------|------|------|-----------|------|------|------|
| 全体        | 882         | 16.4 | 57.4 | 29.6 | 14.5 | 2.2       | 3.1  | 5.2  | 2.2  |
| 北海道       | 26          | 88.5 | 19.2 | 38.5 | 23.1 | 7.7       | 7.7  | —    | 11.5 |
| 東北        | 26          | 53.8 | 46.2 | 15.4 | 7.7  | 3.8       | 3.8  | —    | 3.8  |
| 北関東       | 34          | 2.9  | 91.2 | 17.6 | 5.9  | —         | 2.9  | 2.9  | —    |
| 南関東       | 272         | 3.3  | 91.9 | 15.4 | 3.3  | 2.2       | 1.1  | 1.1  | 1.1  |
| 甲信越       | 20          | 25.0 | 30.0 | 40.0 | 5.0  | —         | —    | 40.0 | —    |
| 北陸        | 15          | —    | 13.3 | 73.3 | —    | —         | —    | 26.7 | —    |
| 東海        | 68          | —    | 69.1 | 30.9 | 10.3 | 2.9       | 1.5  | 7.4  | —    |
| 近畿(市内を含む) | 190         | —    | 10.0 | 48.4 | 44.2 | 0.5       | 0.5  | 7.9  | 2.1  |
| 中国        | 39          | 2.6  | 89.7 | 17.9 | 5.1  | —         | 2.6  | 10.3 | —    |
| 四国        | 15          | 20.0 | 73.3 | 33.3 | 6.7  | 6.7       | —    | 6.7  | 6.7  |
| 九州沖縄      | 55          | 30.9 | 69.1 | 14.5 | 5.5  | —         | 3.6  | —    | 5.5  |
| *日本(地域不明) | 4           | —    | 50.0 | 25.0 | —    | —         | —    | 50.0 | —    |
| *海外       | 101         | 65.3 | 36.6 | 39.6 | 10.9 | 5.9       | 11.9 | 2.0  | 4.0  |
| 無回答       | 17          | 35.3 | 64.7 | 35.3 | —    | —         | 17.6 | 5.9  | —    |

〈参考〉その他：リムジンバス(空港バス、Shuttles 等)、路線バス、高速バス・夜行バス、バス、地下鉄

## ③宿泊・滞在日数(問 4, 図表Ⅱ-9)

**3 日間の会議での平均宿泊数は 2.6 泊、外国人は 3.8 泊**

- 京都での滞在日数について宿泊数及び滞在日数をそれぞれ実数で尋ねた。全体では 2 泊と 3 泊が 32%とほぼ同率で、宿泊者の平均宿泊数は 2.6 泊である（有効回答数 743）。市内居住者以外で全日程とも日帰り（0 泊）の割合は 13%で、大半は近畿圏内居住者で 1 日のみの参加である。
- 外国人では 3 泊が 39%を占め、4 泊もしくは 5 泊以上もそれぞれ 2 割程度あり、日本人と比較して宿泊数が多い。平均宿泊数は日本人宿泊者の 2.3 泊に対して、外国人では 3.8 泊、最長は日本人で 5 泊、外国人で 14 泊である。
- 会議別では、3 泊以上の割合が医歯薬学系 1 と医歯薬学系 2 では 3 割前後であるのに対して、外国人比率の高い自然科学系 2 では 64%である。
- 観光した/する予定の人では 61%が 3 泊以上滞在している。

※調査対象とした会議の日程はいずれも3日間で、自然科学系1と医歯薬学系2については最終日の午後には主要なプログラムが終了している。

※滞在日数は宿泊日数を補完するためのデータであることから集計を割愛した。

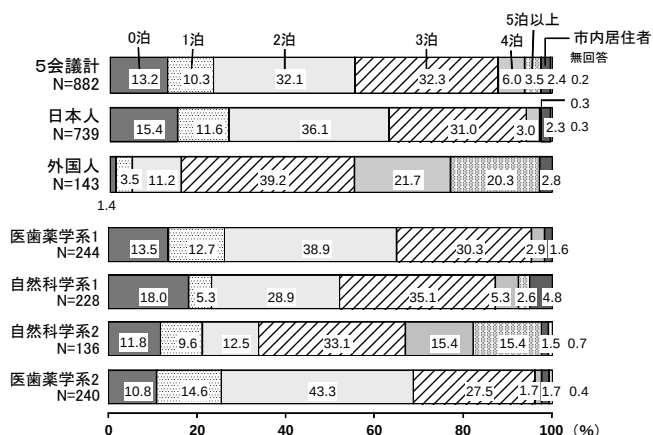
#### ④宿泊場所（問5①、図表Ⅱ-10）

**約8割が京都市内で宿泊。外国人の16%は京都市以外に宿泊**

- 宿泊場所について、「京都市内/京都府下の他都市/大阪府/その他/泊まっていない」の5択で尋ねた。全体では京都市内での宿泊が76%を占め、京都市以外での宿泊は7.6%である。京都市以外では「大阪府」4%、「京都府下の他都市」2%、その他は主に滋賀県である。
- 外国人の京都市内宿泊率は77%で日本人とほとんど差がないが、日帰りが少ないため16%が京都市以外の他都市に宿泊している。
- 会議別では、市内宿泊率は医歯薬学系2の84%が最も高く、自然科学系2の66%が最も低い。自然科学系2については開催時期が紅葉観光シーズンと重なり市内での宿泊場所の確保が難しかったと考えられるが、日本人、外国人とも約2割が京都市外で宿泊している。外国人は京都府下の他都市、日本人は大阪府の宿泊が多い。

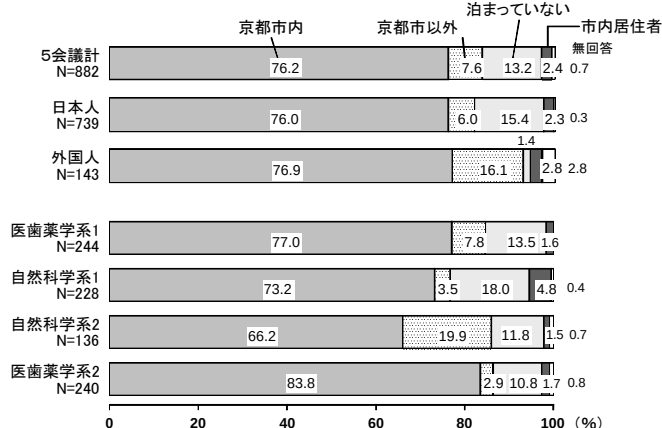
**図表Ⅱ-9 宿泊日数**

（問4. 京都には何日間滞在されますか。）



**図表Ⅱ-10 宿泊場所**

（問5. ①あなたはどこに泊まっておられますか。）



#### ⑤宿泊費（問5②、図表Ⅱ-11、Ⅱ-13、Ⅱ-14）

**1泊当たり宿泊費は平均10,934円。外国人は日本人より約7千円多い**

- 1泊当たりの宿泊費の金額を尋ねたところ、全体平均で10,934円であった（有効回答数463）。年代が高くなるに従い宿泊費は増加しており、50代以上の平均宿泊費は20代の2倍以上である。
- 日本人平均では9,777円、外国人平均では16,829円で、日本人と比較して外国人の宿泊費が高い。外国人では招待客の割合が高いためと推測されるが、2万円以上が日本人の5%に対して外国人では19%となっている。

⑥滞在費（問 6②，図表Ⅱ-12，Ⅱ-13，Ⅱ-15）

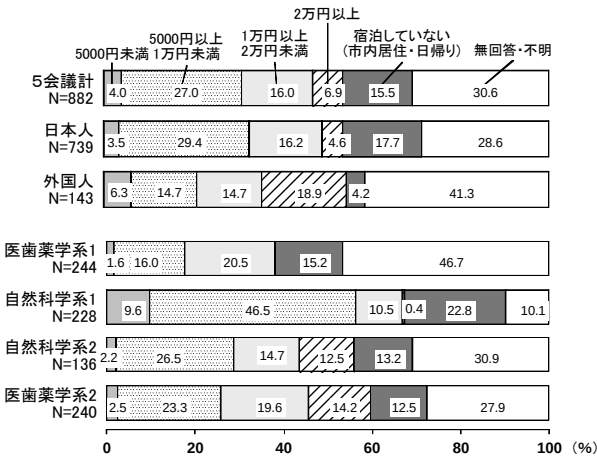
総滞在費<sup>(※)</sup>は全体平均で 31,948 円。  
外国人は日本人の約 4 倍，宿泊者は非宿泊者の約 9 倍の消費額

- 会議参加費と宿泊費を除く飲食費やおみやげ代など京都滞在にかかる費用の総額を尋ねたところ，全体平均で 31,948 円(有効回答数 802，滞在日数不明 9 件を含む)，総滞在費を滞在日数で除した 1 日当たり滞在費の全体平均は 9,060 円(有効回答数 793)であった。
- 外国人の総滞在費は日本人の約 4 倍(日本人 22,008 円/外国人 92,558 円)，1 日当たり滞在費では約 3 倍である(日本人 7,136 円/外国人 20,641 円)。また，宿泊者の総滞在費は非宿泊者の約 9 倍(宿泊者 36,052 円/非宿泊者 4,097 円)，1 日当たり滞在費で約 3 倍(宿泊者 9,799 円/非宿泊者 3,615 円)である。
- なお，宿泊費を含む滞在中の総消費額は全体平均で 52,492 円(有効回答数 562)であり，外国人は日本人の約 4 倍(日本人 37,449 円/外国人 150,171 円)，宿泊者は非宿泊者の約 15 倍(宿泊者 63,352 円/非宿泊者 4,097 円)である。

※宿泊・滞在日数，宿泊費，滞在費の回答状況によって平均金額算定時の有効回答数が異なる。  
※期間中に外国為替レートの変動があったが，一律 1 ドル=100 円，1 ユーロ=140 円で円換算している。

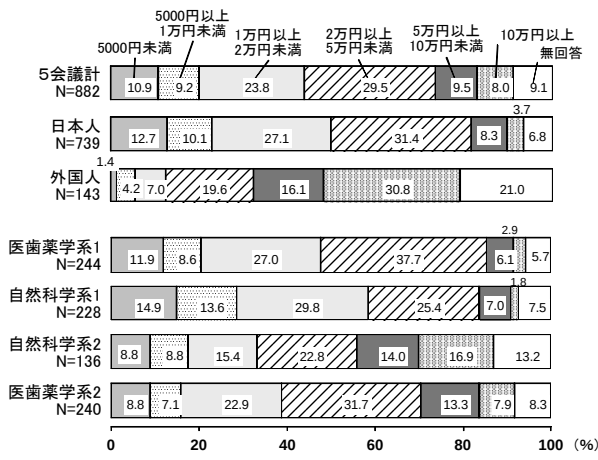
図表Ⅱ-11 宿泊費

(問 5. ②そのホテル・旅館等の宿泊費はいくらですか。)



図表Ⅱ-12 滞在費（総額）

(問 6. 今回の会議参加費・宿泊費は含めず，飲食費やおみやげ代など京都滞在にかかる費用は総額でおよいくらですか。)



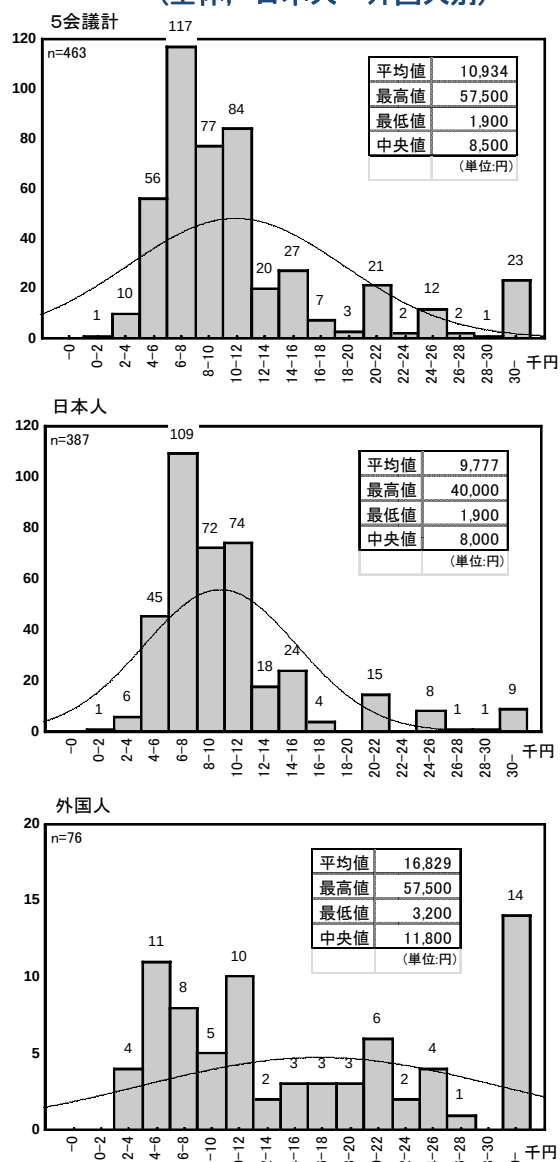
図表Ⅱ-13 宿泊費・滞在費・総消費額（全体，日本人・外国人，宿泊者・非宿泊者平均）

単位：円

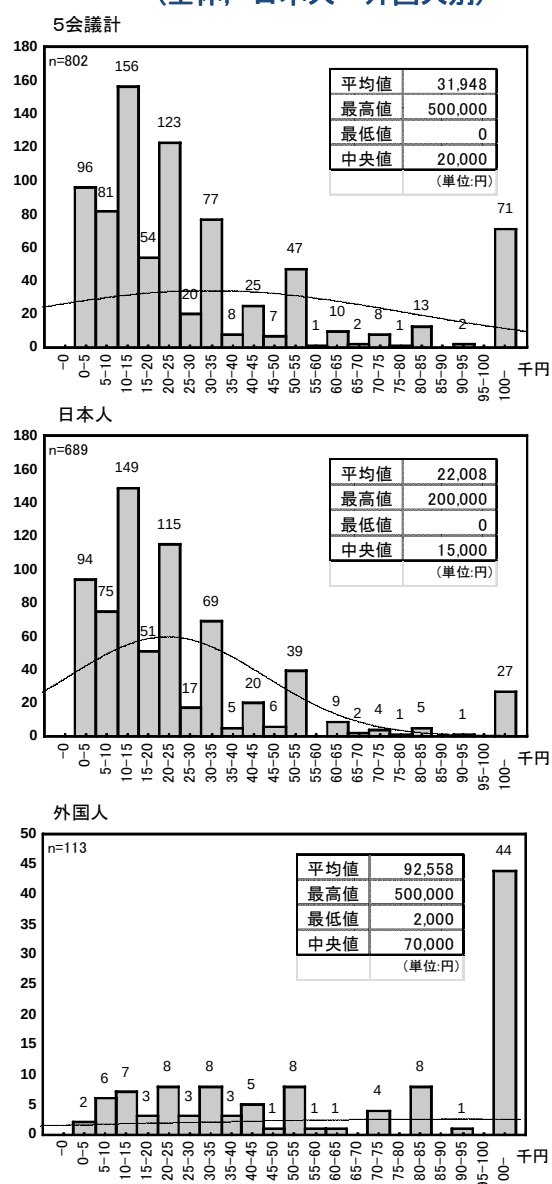
|                |                | 有効回答数 | 全 体    | 日本人    | 外国人     | 宿泊者    | 非宿泊者  |
|----------------|----------------|-------|--------|--------|---------|--------|-------|
| 宿泊費            | 1泊当たり(A)       | 463人  | 10,934 | 9,777  | 16,829  | 10,934 | —     |
|                | 総額 ((A)×泊数)(C) |       | 29,271 | 22,406 | 64,232  | 29,271 | —     |
| 滞在費            | 1日当たり((B)/日数)  | 793人  | 9,060  | 7,136  | 20,641  | 9,799  | 3,615 |
|                | 総額 (B)         | 802人  | 31,948 | 22,008 | 92,558  | 36,052 | 4,097 |
| 総消費額 ((B)+(C)) |                | 562人  | 52,492 | 37,449 | 150,171 | 63,352 | 4,097 |

※(A)は問5②，(B)は問6，日数及び泊数は問4による。  
※宿泊費については，有効回答数に宿泊費 0 円(親戚・友人宅に宿泊分)を含まない。  
1 日当たり滞在費については，有効回答数に滞在日数不明 9 人を含まない。  
総消費額の有効回答数は，宿泊費(非宿泊者を含む)，滞在費，滞在日数のすべてに回答があったもので，宿泊費 0 円及び滞在費 0 円を含む。

図表Ⅱ-14 宿泊費の分布状況  
(全体、日本人・外国人別)



図表Ⅱ-15 滞在費（総額）の分布状況  
(全体、日本人・外国人別)



### (3) 参加会議について (問 7・8)

#### ①会議内容の評価 (問 7, 図表Ⅱ-16)

7 割以上が会議の内容に満足。  
外国人では 9 割以上が満足, 「たいへん満足」も 4 割以上と高い満足度

- 会議の内容について「たいへん満足/満足/普通/あまり満足していない/不満」の 5 段階で評価してもらった。全体では「たいへん満足」が 19%, 「満足」が 54%と 73%が会議の内容に満足している。
- 日本人と比較して外国人の評価が高く, 「たいへん満足」が 41%, 「満足」が 50%と 91%が満足している。日本人では「たいへん満足」が 15%と低く, 代わりに「ふつう」が 27%と高い。外国人で「ふつう」とする回答は 5%である。
- 会議別では, 自然科学系の 2 会議と比較して医歯薬学系の 2 会議で「たいへん満足」とする割合が 2 割以下と低く, 特に医歯薬学系 2 の満足度が相対的に低い。

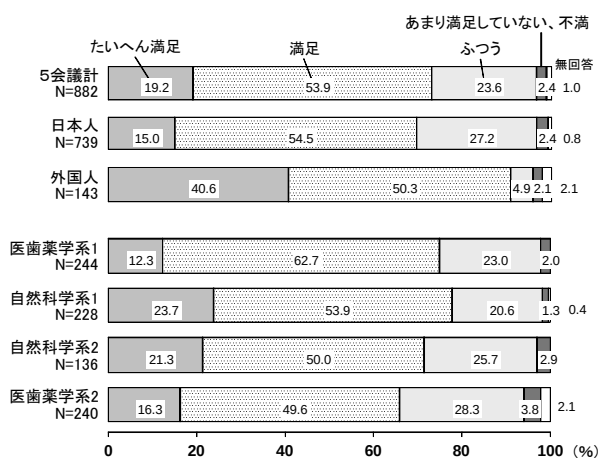
#### ②会議施設の印象 (問 8, 図表Ⅱ-17)

7 割以上が会議施設に満足。  
日本人, 外国人とも会議内容とほぼ同じ高い満足度

- 会議施設の印象について「たいへん満足/満足/普通/あまり満足していない/不満」の 5 段階で評価してもらった。全体では「たいへん満足」が 19%, 「満足」が 54%と, 会議内容の評価と比較して若干ポイントが低いものの, 72%が満足している。
- 日本人と外国人についてもほぼ会議内容と同様の傾向であるが, 「たいへん満足」とする割合が会議内容の評価より外国人では高く, 日本人では低い。
- 会議別では, 自然科学系の 2 会議で満足とする割合が会議内容の評価より高いのに対し, 医歯薬学系の 2 会議では低く, 不満度も相対的に高い。

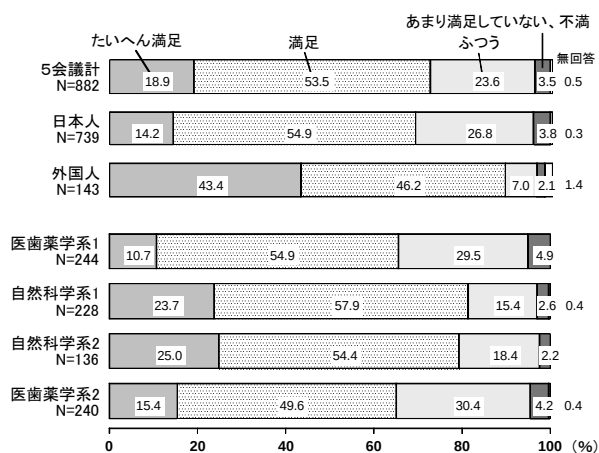
図表Ⅱ-16 会議内容の評価

(問 7. 今回の会議の内容をどう評価されていますか。)



図表Ⅱ-17 会議施設の印象

(問 8. 今回の会議施設の印象はいかがでしたか。)



#### (4) 京都観光について (問 9~12)

##### ①市内観光の有無 (問 9, 図表Ⅱ-18)

市内観光をした人は約 4 割。  
日本人の約 3 割, 外国人の約 8 割が会議での入洛時に観光

- 京都市内の観光をしたかどうか (する予定を含む) を尋ねたところ, 全体では観光をした人は 40%であった。年齢別では 60 代以上で 60%, 20 代で 46%が観光しているが, 30 代から 50 代は 4 割に満たない。最も観光する割合が低いのは 40 代(34%)である。
- 外国人では 83%が観光しているのに対して, 日本人で観光をした人は 31%である。
- 会議別では, 自然科学系 2 で 60%, 自然科学系 1 で 40%, 医歯薬学系の 2 会議では 30%が観光をしている。会議別の外国人比率や年代構成のほか, 会議スケジュールの粗密や当日の天候 (医歯薬学系 1 の台風, 医歯薬学系 2 の積雪) も市内観光の有無に影響していると考えられる。

##### ②印象に残った観光地 (問 10, 図表Ⅱ-19)

人気の観光地ベスト 3 は, 清水寺, 嵐山・嵯峨野, 金閣寺。  
日本人では嵐山・嵯峨野, 外国人では二条城が人気

- 京都市内の代表的な 8 つの観光地を示して印象に残った場所, もしくは行くのが楽しみな場所を尋ねたところ, 全体では第 1 位が清水寺, 以下, 金閣寺, 嵐山・嵯峨野の順であった。
- 外国人では約半数が清水寺と金閣寺を上げており, 続く第 3 位に二条城が入っている。日本人では清水寺に続いて第 2 位に嵐山・嵯峨野が入っており (第 3 位は金閣寺), 嵐山・嵯峨野については全項目の中で唯一外国人より日本人の回答率が高い。
- その他の観光地では南禅寺, 永観堂, 東福寺など洛東の紅葉の名所や, 八坂神社, 三十三間堂などの寺院神社, 祇園や四条河原町など都心の盛り場が多い。ユニークな場所では微生物や酵素に関連が深い自然科学系 1 で曼殊院菌塚が上がっている。

##### ③京都で気に入ったもの (問 11, 図表Ⅱ-20)

京都で気に入ったもののベスト 3 は, まちの雰囲気, 自然・風景, 寺院神社。  
日本人は「まちの雰囲気」, 外国人は「寺院神社」が第 1 位

- 京都の代表的な 7 つの観光資源を示して気に入ったものを訪ねたところ, 全体では第 1 位が「まちの雰囲気」, 以下, 「自然・風景」「寺院神社」の順であった。年代別では若年層ほど「まちの雰囲気」の評価が高く, 年代が上がるにつれ「寺院神社」の評価が高い。
- 外国人では第 1 位が「寺院神社」, 以下「自然・風景」「まちの雰囲気」の順であるのに対して, 日本人では第 1 位が「まちの雰囲気」, 以下「自然・風景」「寺院神社」と 1 位と 3 位が入れ替わっている。そのほか, 外国人は「伝統文化・芸能」の評価が高い。



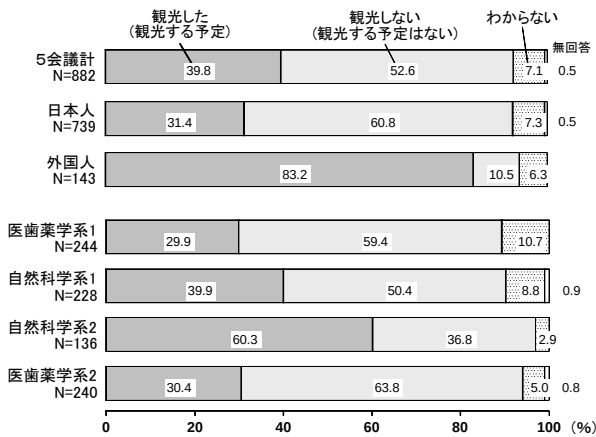
④京都への再訪意向（問 12、図表Ⅱ-21）

会議参加者の 9 割が京都への再訪を希望。  
日本人の 69%，外国人の 64%が「必ず来たい」

- 京都にまた来たいと思うかどうかを「必ず来たい/少し来たい/なんとも言えない/あまり来たくない/来たくない」の 5 段階で尋ねた。全体では「必ず来たい」68%，「少し来たい」22%と、90%が京都にまた来たいと回答している。おおむね訪問回数が多いほど「必ず来たい」の割合が高まる傾向にある。年代別では 40 代と 60 代以上で再訪意向が高い。
- 外国人では 88%がまた来たいと回答しているが、「必ず来たい」とする人は日本人より若干少ない。「なんとも言えない」「あまり来たくない」は 7%である。
- 会議別では、医歯薬学系の 2 会議では「必ず来たい」とする割合が 7 割を超えるなど、自然科学系の 2 会議と比較して再訪意向が高い。

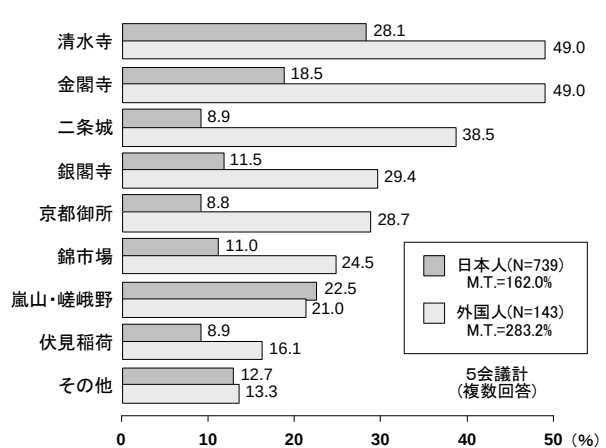
図表Ⅱ-18 市内観光の有無

（問 9. あなたは京都市内のどこかを観光されましたか。  
あるいは観光される予定ですか。）



図表Ⅱ-19 印象に残った観光地

（問 10. 観光地ではどこが印象的でしたか。  
あるいはどこに行くのが楽しみですか。）



〈参考〉印象に残った観光地「その他」一覧

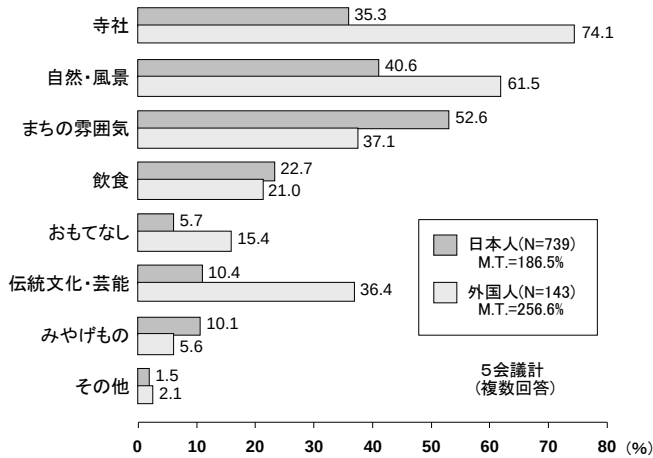
有効回答数 97 件

|     |                                                                            |
|-----|----------------------------------------------------------------------------|
| 洛北  | 鞍馬，貴船神社，上賀茂神社，曼殊院菌塚，三千院，詩仙堂                                                |
| 洛東  | 平安神宮，南禅寺，永観堂，金戒光明寺，建仁寺，知恩院三門，青蓮院門跡，八坂神社，円山公園，祇園，祇園センター，東福寺，東山，高台寺，三年坂，哲学の道 |
| 洛中  | 下鴨神社，北野天満宮，晴明神社，相国寺，出町ふたば，四条河原町，京都駅，Kyoto Tower，東寺，三十三間堂，東本願寺，梅小路機関車庫，水族館  |
| 洛西  | 龍安寺，大原野神社，仁和寺，鈴虫寺，西芳寺，大覚寺，広隆寺，等持院                                          |
| 洛南  | 寺田屋，平等院                                                                    |
| その他 | 酒蔵，鴨川，市内繁華街，geisha district /ほか                                            |



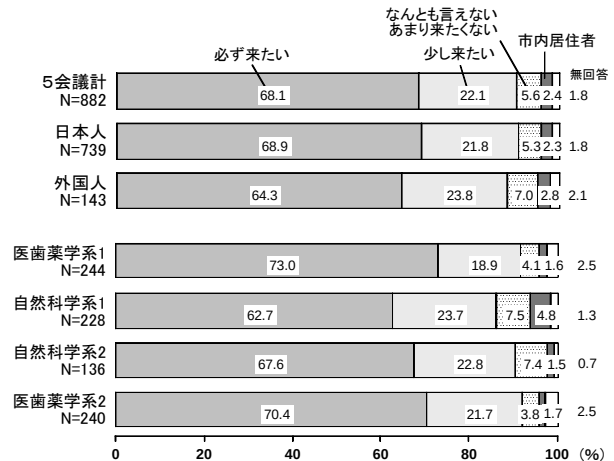
図表Ⅱ-20 京都で気に入ったもの

(問 11. 京都では観光地や施設、町並み、人物など、何がいちばん気に入りましたか。)



図表Ⅱ-21 京都への再訪意向

(問 12. 京都にまた来たいと思いますか。)



※「来たくない」との回答はなし

## (5) 自由意見 (問 13)

- 京都に来て気づいた点について自由に回答してもらったところ、街並みや景観、会議当日の天候についての感想のほか、不満点として交通マナーの悪さ、案内標示の分かりにくさ、駅のエレベーターや会議施設等の Wi-Fi の未整備などバリアフリー化や IT 対応の遅れを指摘する意見が多かった。会議に関しては会議施設の老朽化や周辺に飲食店がないこと、観光シーズンの宿泊料の高さや市内の混雑、観光に関しては夜の観光地がないことや体験型観光スポットの当日予約ができないことなどが不満点として上がっている。
- 外国人では伝統文化や景観、人々のホスピタリティ、食事など日本を代表する観光地としての魅力を総合的に評価する意見が多い。不満を感じた点としては、会議場や宿泊場所が中心市街地から遠かったことや、ベジタリアンやムスリム向けのメニューが少ないこと、英語対応が十分でないことなどが上がっている。

## 〈参考〉自由意見の回答例

有効回答数 225 件

(問 13. 最後に、あなたが京都に來られて気づかれた点について何でも自由にお書きください。)

### 《プラス評価》

- It is a very beautiful city with lots of interesting spots and food to enjoy. (ポーランド/女性/50代/3回目/科学技術系 1)
- Very nice city and surroundings old culture and traditional Japanese life. (スペイン/男性/50代/5回以上/自然科学系 1)
- Very nice city. I've been to Nagoya and Tokyo, but I find Kyoto is more beautiful and well-prepared for tourism. Just need some improvement with the food (food for Moslems, no pork, no alcohol). (インドネシア/男性/20代/初めて/自然科学系 2)
- It is a place I would like to live for a short period. (one or two months) (ペルー・仙台市在住/男性/20代/2回目/自然科学系 1)
- マンションなどの新しい建物でも 1 階部分を和風にしていたり、街並みに気をつけていて好印象だ。 (渋谷区/男性/30代/3回目/医歯薬学系 1)

／等

《マイナス評価》

- Kyoto is a wonderful city of day time, but for night life Kyoto isn't very good compared to Osaka and Tokyo. (インドネシア/男性/20代/初めて/自然科学系 2)
- 国際会議場周辺にランチするところがほしい。(つくば市/女性/30代/5回以上/自然科学系 1)
- 夜の街が暗く、お店も早く閉まり歩きづらい。遠方から来て忙しい仕事の合間であり、終了後短時間での観光プラン提示があれば望ましい。(神戸市/女性/50代/5回以上/医歯薬学系 2)
- 駅(民鉄・市営地下鉄含む)の出口・トイレ等の案内がわかりにくい。また、エスカレーターが少ない。  
(市川市/男性/20代/5回以上/自然科学系 1)
- 週末のホテル代が高い。バスでの行き方の案内がよくわからない。(横浜市/女性/50代/5回以上/医歯薬学系 2)
- 街並み、風景、町の雰囲気が他の地域との差がなくがっかりだった。もっと地域性のある地だと思っていた。(山武市/男性/20代/初めて/自然科学系 1)
- 観光シーズンは人も宿泊費も大変なので、オフがよい。(川崎市/男性/40代/5回以上/自然科学系 2)
- 外国からの研究者を連れて遊びに行くのは姫路城か明石大橋。長期滞在の人には、次に京都の順。なにしろお金(交通費)がかかるので。(姫路市/男性/30代/5回以上/自然科学系 1)

《その他要望・感想等》

- 今回初めて無料 Wi-Fi を知りました。中継地点をもっと増やしていただきたいです。(東京都/男性/30代/4回目/医歯薬学系 1)
- 学会のときは観光も外食もしないので、旅行で必ず来ます！(札幌市/女性/30代/4回目/医歯薬学系 1)

／等

### Ⅲ 調査結果の考察

本章では、Ⅰ、Ⅱの調査結果を分析し、いくつかの論点について考察を加えたのち、それらを踏まえてマーケティング戦略策定に向けての課題と方向性について記す。

#### 1 考察その1

会議主催者ヒアリング調査から、以下のようなことが指摘できる。

##### ①会議開催地・京都の決定要因について

**会議開催地決定要因として、京都というブランドに加え、開催委員長等に対する学会内での評価とともに、予算に見合う会議施設等の費用対効果を重視**

- 会議開催地を京都と決定する要因については、国際学会の本部組織のメンバーが「京都」の名前を上げて打診するケースがあるように、総じて「外国人研究者に人気」を獲得していると見ることができる。また「関東の研究者にも人気」がある。特に「日本で初の開催」というケースでは、企画・主催者自身が「京都でないと他の外国の都市とは戦えない」という認識を持っている。京都の「ネームバリュー」「ブランド力」は、まだ一定の効力を保持していると言える。「ブランド」を構成するのは「観光スポットの集積」であり、「寺院神社」や「自然・風景」「まちの雰囲気」「伝統文化」である。
- 国内学会については、京都以外の会議主催者で京都を開催地に選んだ人は「京都ファン」、言い換えれば、いい意味での「京都幻想」を持つとも言える人たちで、京都の「ネームバリュー」「ブランド力」が「まだ」効いている。
- しかしながら、大半の国内学会の主催者が「決め手」として上げたのは、京都というブランドもさることながら、「開催テーマ」や「開催委員長」「組織体制」「会議施設」等であり、必ずしも京都で開催すること自体が決め手の最上位としては上がらなかった。現在は、京都のネームバリューは必ずしも必要条件ではなく、もっと現実的な「委員長」や「体制」など学会内での評価や、限られた予算に見合う会議施設等の費用対効果が重視されており、今後も重視されていくものと推測される。

##### ②京都開催の満足度について

**会議主催者も会議参加者も京都開催における満足度が高い。これはMICE開催地として重要。しかし、会議施設の料金や、選択肢が少ないことに対しては満足度が低い**

- 会議参加者の満足度が総じて高かったことは先に触れたが、会議主催者は会議参加者の満足度が高かったこと自体には満足しており、このことはMICE開催地としてきわめて重要である。しかし、主催者の京都の会議施設等に対する満足度は少し異なっている。
- 京都の主力会議施設である施設Aのブランド力は一定のレベルにあると推測され、実際、参加者アンケート調査では7割以上が「満足」としている。しかし、料金の高さには満足度は低い。また、現在の施設Aのキャパからすれば、1万人を大きく超えるような超大規

模の会議の誘致に当たり相対的に不利であることは言うまでもない。特に他都市の会議開催助成が京都より勝っているような現状では、実利的な面から京都という都市、施設Aという会議施設が選ばれにくい状況がやがて訪れるのではないかと懸念される。

- 会議施設については、大規模・中規模とも会議施設の「選択肢が限られている」ことは、ほとんどの主催者が認識していた。その言葉の裏にある「もっとたくさん施設があればいい」という会議主催者の素朴な思いは、MICE都市・京都の大きな課題を浮き彫りにしている。特に、近年中規模の学会や研究集会が増えているという指摘には素直に耳を傾けるべきであり、MICEに適応する施設の新規整備が望まれる。

### ③会議主催者への支援について

**主催者への支援は、会議開催助成制度の拡充とともに、  
情報提供等を通じた主催者とのコミュニケーション体制の確立が不可欠**

- 我が国の主要都市の国際会議等の支援制度に匹敵する京都の支援制度の拡充が必要であることは先に触れた。他都市の助成金制度、主要施設の施設料金は節末の表の通りである。京都市の助成金については大都市の中で中位に位置している。また、主要会議施設の料金については、京都の主な施設料金は競合大都市である東京・横浜に比べると決して高いとは言えないが、他の都市に比べると明らかに差があるものとなっている。京都市における助成制度の充実とともに、会議施設料金の弾力的な設定等の支援が求められる。
- 財政的支援以外の支援のあり方について取りまとめる。初めて国際会議を主催することになった研究者は、先輩や同僚から国際会議の運営方法や事務手続き、会議施設情報、助成制度等の情報を入手するのに苦労していると推測される。企画段階でこうした情報が得られれば、かなりの手間が省ける。前章に上げた、主催者が予定する参加費や人数、日程等に合わせた市内の会場紹介(情報)サービスを、という要望はそれを裏付けている。会議主催者に対しては、そうしたPCOに業務委託する以前の初期情報を提供し、多忙な研究者等が手軽に利用できるシステムが考案されてしかるべきである。これまでも要請があれば開催都市コンペ等に情報支援を行ってきたが、そうした会議主催者もしくは会議主催予定者への初期対応は、結果的に京都での会議開催を後押しするものとなる。
- なお大学等の研究者は、1つの学会だけでなく複数の学会に属することがほとんどであり、「(別の)あの学会の場合は…」といった情報がヒアリング調査で得られた。今回のヒアリング調査を契機として知り合った会議主催者に対して、さまざまな学会の周年行事等の情報を再度詳細な調査を経て整理し直し、その中から支援策を講じていくことは、「手づくり」レベルとは言え、今後に有益な作業であると考えられる。
- 会議主催者もしくは会議主催予定者とコンベンションビューロー等地元担当者とのラポール確立により、コミュニケーションを密にし、国際会議実現に向けてのさまざまな課題を「共に」乗り越え、京都での会議成功に向けて「共に」歩む、十分な人員体制を整えることが重要である。よしんば、その会議が実現しなかったとしても、彼らの内外に及ぶ人的ネットワークは「次」の案件をもたらすと考えられる。

図表Ⅲ-1 主要都市コンベンションビューローの助成金制度

| コンベンションビューロー名            | 助成金制度・最高金額 | 備 考              |
|--------------------------|------------|------------------|
| (公・財) 札幌国際プラザ            | 要問合せ       |                  |
| (公・財) 仙台観光コンベンション協会      | 200 万円     |                  |
| (公・社) さいたま観光国際協会         | 110 万円     |                  |
| (公・財) ちば国際コンベンションビューロー   | 2,000 万円   | 県・市協調の場合         |
| (公・財) 東京観光財団             | 300 万円     |                  |
| (公・財) 横浜観光コンベンション・ビューロー  | 1,000 万円   |                  |
| (公・財) 新潟観光コンベンション協会      | 1,050 万円   | 県 700・市 350(併用可) |
| (財) 金沢コンベンションビューロー       | 1,050 万円   | 国際会議             |
| (公・財) 静岡観光コンベンション協会      | 100 万円     | 国際会議のみ           |
| (公・財) 浜松観光コンベンションビューロー   | 200 万円     |                  |
| (公・財) 名古屋観光コンベンションビューロー  | 200 万円     |                  |
| (公・財) 京都文化交流コンベンションビューロー | 300 万円     |                  |
| 大阪観光局                    | 要問合せ       |                  |
| (一・財) 神戸国際観光コンベンション協会    | 500 万円     |                  |
| (公・社) おかやま観光コンベンション協会    | 200 万円     | 国際会議             |
| (公・財) 広島観光コンベンションビューロー   | 200 万円     | 開催助成             |
| (公・財) 高松観光コンベンション・ビューロー  | 1,000 万円   | 県と合わせた場合         |
| (公・財) 西日本産業貿易コンベンション協会   | 1,000 万円   |                  |
| (公・財) 福岡観光コンベンションビューロー   | 300 万円     |                  |

(出典) 日本政府観光局「コンベンションビューローサービス一覧」「日本コンベンション都市ガイド」  
(平成 23 年 9 月)等をもとに作成

図表Ⅲ-2 主要都市MICE施設の利用料金

| 施設区分 | 会 場 名                    | 面積<br>(㎡) | 席配置         |             | 平日利用料金(会議利用) |           | 1㎡1時間<br>当たり<br>利用料金<br>(円) |
|------|--------------------------|-----------|-------------|-------------|--------------|-----------|-----------------------------|
|      |                          |           | シアター<br>(席) | スクール<br>(席) | 利用料金<br>(円)  | 金額<br>(円) |                             |
| ホール  | 国立京都国際会館<br>大会議場(メインホール) | 2,040     | 1,840       |             | 9~17         | 819,000   | —                           |
|      | 京都テルサ<br>テルサホール          |           | 856         | 300         | 9~17         | 147,000   | —                           |
|      | 神戸国際会議場<br>メインホール        | 829       | 692         |             | 9~17         | 139,000   | —                           |
|      | 大阪国際会議場<br>メインホール        |           | 2,754       |             | 9~17         | 766,500   | —                           |
|      | パシフィコ横浜<br>国立大ホール(1~3 階) |           | 5,002       |             | 8 時間         | 2,100,000 | —                           |
|      | 東京国際フォーラム<br>ホールA        |           | 5,012       |             | 9~17         | 2,205,000 | —                           |
|      | 名古屋国際会議場<br>センチュリーホール    |           | 3,012       |             | 9~17         | 399,800   | —                           |
|      | 広島国際会議場<br>フェニックスホール     | 1,547     | 1,504       |             | 9~16         | 186,240   | —                           |
|      | 福岡国際会議場<br>メインホール        | 1,300     | 1,000       |             | 9~17         | 96,600    | —                           |
|      | 北九州国際会議場<br>メインホール       | 791       | 585         |             | 9~17         | 102,400   | —                           |

| 施設区分 | 会 場 名                    | 面積<br>(㎡) | 席配置         |             | 平日利用料金(会議利用) |           | 1㎡1時間<br>当たり<br>利用料金<br>(円) |
|------|--------------------------|-----------|-------------|-------------|--------------|-----------|-----------------------------|
|      |                          |           | シアター<br>(席) | スクール<br>(席) | 時間帯<br>(時)   | 金額<br>(円) |                             |
| 会議室  | 国立京都国際会館<br>RoomA        | 950       | 550         | 280         | 9～17         | 483,000   | 64                          |
|      | 国立京都国際会館<br>RoomB-1      | 470       | 212         | 120         | 9～17         | 231,000   | 61                          |
|      | みやこめっせ<br>大会議室           | 182       |             | 120         | 9～17         | 30,135    | 21                          |
|      | みやこめっせ<br>第2～3会議室        | 104       |             | 48          | 9～17         | 17,010    | 20                          |
|      | 京都テルサ<br>セミナー室、大会議室      | 352       |             | 162         | 9～17         | 66,150    | 23                          |
|      | 京都テルサ<br>中会議室、D会議室       | 198       |             | 72          | 9～17         | 37,800    | 24                          |
|      | 神戸国際会議場<br>国際会議室         | 387       |             | 240         | 9～17         | 186,000   | 60                          |
|      | 神戸国際展示場<br>2号館 3A会議室     | 450       | 400         | 270         | 9～17         | 146,000   | 41                          |
|      | 大阪国際会議場<br>1001～1003     | 1,010     | 1,044       | 570         | 9～17         | 367,500   | 45                          |
|      | 大阪国際会議場<br>1003          | 541       | 540         | 288         | 9～17         | 189,000   | 44                          |
|      | パシフィコ横浜<br>会議センター301～304 | 1,366     |             |             | 9～17         | 1,101,450 | 101                         |
|      | パシフィコ横浜<br>会議センター301     | 335       |             |             | 9～17         | 269,850   | 101                         |
|      | 東京国際フォーラム<br>G409        | 206       | 168         | 120         | 9～17         | 191,100   | 116                         |
|      | 東京国際フォーラム<br>G502        | 144       | 130         | 81          | 9～17         | 132,300   | 115                         |
|      | 名古屋国際会議場<br>国際会議室        | 500       | 336         | 92          | 9～17         | 204,000   | 51                          |
|      | 名古屋国際会議場<br>1号館 141～142  | 400       | 360         | 160         | 9～17         | 71,200    | 22                          |
|      | 広島国際会議場<br>国際会議ホール(ひまわり) | 600       | 600         | 264         | 9～21         | 326,920   | 45                          |
|      | 広島国際会議場<br>大会議場(ダリア)     | 650       | 720         | 360         | 9～21         | 326,920   | 42                          |
|      | 福岡国際会議場<br>多目的ホール        | 1,320     | 1,536       | 882         | 9～17         | 296,700   | 28                          |
|      | 福岡国際会議場<br>国際会議室 501     | 420       | 420         | 264         | 9～17         | 135,300   | 40                          |
|      | 北九州国際会議場<br>国際会議室        | 216       |             | 86          | 9～17         | 83,200    | 48                          |
|      | 北九州国際会議場<br>11会議室        | 175       | 110         | 60          | 9～17         | 23,000    | 16                          |

| 施設区分 | 会 場 名                      | 面積<br>(㎡) | 席配置         |             | 平日利用料金(会議利用) |                              | 1㎡1時間<br>当たり<br>利用料金<br>(円) |
|------|----------------------------|-----------|-------------|-------------|--------------|------------------------------|-----------------------------|
|      |                            |           | シアター<br>(席) | スクール<br>(席) | 利用料金<br>(円)  | 金額<br>(円)                    |                             |
| 展示会場 | 国立京都国際会館<br>イベントホール        | 3,000     | 2,500       | 1,200       | 9～18         | 735,000                      | 27                          |
|      | みやこめっせ<br>第3展示場            | 4,000     | 5,000       | 1,600       | 9～17         | 630,000                      | 20                          |
|      | 神戸国際展示場<br>2号館(コンベンションホール) | 3,800     | 4,000       | 2,000       | 9～17         | 展示 972,000<br>会議 756,000     | 32<br>25                    |
|      | 大阪国際会議場<br>イベントホール(A～E)    | 2,600     |             |             | 9～17         | 630,000                      | 30                          |
|      | パシフィコ横浜<br>展示ホール(A～D)      | 20,000    |             |             | 0～24         | 6,930,000                    | 14                          |
|      | 東京国際フォーラム<br>展示ホール         | 5,000     |             |             | 9～18         | 5,250,000                    | 117                         |
|      | 名古屋国際会議場<br>イベントホール        | 1,920     | 1,480       | 828         | 9～17         | 321,200                      | 21                          |
|      | マリンメッセ福岡<br>多目的展示室         | 8,000     |             |             | 8～21         | 展示 2,625,000<br>会議 2,100,000 | 25<br>20                    |
|      | 北九州国際会議場<br>イベントホール        | 530       |             |             | 9～17         | 96,000                       | 23                          |

(出典)平成 26 年 3 月現在の各施設ホームページからの抜粋



## 2 考察その2

会議参加者アンケート調査からは、以下のようなことが指摘できる。

### ①MICE客の宿泊・滞在費

**MICE宿泊客の平均滞在費 63,352 円は、一般の観光宿泊客 26,492 円の約 2.4 倍**

- アンケート調査によれば、MICE客全体の6割以上が5回以上の来訪経験があり、日本人では約7割を占める。また外国人も半数近くがリピーター(2回以上)である。しかも宿泊者全体の平均宿泊数は2.6泊、日本人平均2.3泊、外国人平均は3.8泊、全体で3泊・2泊とも約32%となっており、MICE客は、「京都市観光総合調査」(以下「京都市調査」と略)による一般観光客の宿泊数より多い宿泊数となっている。
- 1泊当たり宿泊費の平均額は、全体で10,934円、日本人は9,777円、外国人は16,829円となっており、「京都市調査」の9,571円を上回り、また観光庁「MICE経済波及効果測定モデル」(以下「観光庁モデル」と略)の原単位、日本人5,509円、外国人8,050円を大きく上回る結果となっている。
- また、宿泊者1人当たり滞在費の平均額は、全体で63,352円、日本人46,186円、外国人154,121円であり、「京都市調査」の宿泊客26,492円(日帰り客6,630円)、また「観光庁モデル」の日本人15,987円、外国人39,212円を大きく上回る結果となっている。MICE宿泊客の平均滞在費63,352円は、一般観光宿泊客26,492円の約2.4倍の消費を行っている。したがって、MICE宿泊客はその再訪率や宿泊数も考え合わせると、京都市にとってはきわめて優良な顧客とすることができる。

**図表 3-3 宿泊客滞在費比較 (宿泊客1人当たりの滞在費平均額) 単位:円**

|           | 全 体    | 日本人    | 外国人     |
|-----------|--------|--------|---------|
| 今 回 調 査   | 63,352 | 46,186 | 154,121 |
| 京 都 市 調 査 | 26,492 | —      | —       |
| 観光庁モデル    | —      | 15,987 | 39,212  |

### ②MICEから観光行動への波及

**MICE訪日客は8割以上が京都を観光し、9割近くが再訪意欲を示していることから少なからぬ経済的波及効果への期待は可能**

- アンケート調査では京都観光についても尋ねている。観光をした人は全体の39.8%、日本人31.4%、外国人83.2%となっている。日本人の約3割しか観光しておらず、特に40代が低いという結果であるが、京都に来たのは会議に参加することが本来の目的であることを考えると、「さっさと帰ってしまう」のはうなずけるところである。また、会議スケジュールや当日の天候にも左右されるところではある。しかし、外国人は8割以上が京都を観光している。

- 印象に残った観光地としては、全体では清水寺、金閣寺、嵐山・嵯峨野の順であるが、外国人は第3位に二条城が上がっている。また、京都で気に入ったものとして、全体では「まちの雰囲気」、「自然・風景」、「寺院神社」の順で上がっている。外国人では第1位に「寺院神社」が上がり、また「伝統文化・芸能」の評価も高くなっている。MICE訪日客の多くは、会議の前後か合い間かに時間を作り、こうした京都の風物を満喫したものと推測される。京都に、果たして外国人を満足させる「伝統芸能・文化」のメニューが豊富なのかどうか、京料理等のグルメや伝統工芸品等の土産物についてはどうなのかといったことは、別の検証課題になる。
- 再訪意向については、全体の約9割が「また来たい」と回答し、きわめて高い割合であった。外国人も約88%が再訪意欲を示しており、MICE客に期待される「仕事(会議)の次は、観光や別の目的での再訪」という可能性を確認することができる。こうした調査結果から、MICE客には今後も少なからぬ経済波及効果や、全世界に京都観光の魅力が発信できるといった二次的波及効果を期待することができる。

### ③MICE経済規模の推定数値

**MICE客の平均滞在費は一般観光客の2.4倍、消費総額は年間約74.5億(2012年)**

- MICEの経済規模については、観光庁がその経済波及効果測定モデル作成等を試みているが、MICEの「経済効果」を明らかにすることは、京都においても継続的な課題である。ただ、今回のアンケート調査で得られた、単純ではあるが「MICE客の平均滞在費63,352円は、一般観光宿泊客26,492円の約2.4倍」という指標を用いることで、京都MICEの一定の経済規模を推定することは可能である。
- 例えば、2012年京都には年間116,088人のMICE客(国際会議189件)が訪れており、日本人96,705人、外国人19,383人という内訳である。この人数にそれぞれの平均滞在費、日本人46,186円、外国人154,121円を掛けると、年間約74.5億円の消費総額になる。この額を小さいと見るか大きいと見るかは見解が分かれるところであるが、会議開催に伴う会場費等の直接的経費とは別に、個人としては約74.5億の消費総額をもたらしており、さらに同伴者による消費等を考えるならば、さらに大きな額になると推測される。MICE客への期待は、地元での消費にとどまらず、一定の社会的地位にある個々人が京都という都市にもたらす有形無形の利益、社会的影響力や情報発信力もあるということを考え合わせ、この額は大きいと見なすべきではないかと考えられる。
- 今MICE客数は約11万人で、一般観光客の約500分の1にすぎないと推測されるが、さまざまなMICE受入環境を整えることで、これまで以上にMICE客の割合を増やす、すなわち観光の「質」を変えることができるならば、さらに経済規模と波及効果は大きくなることが期待できる。

### 3 課題と方向性

これまでの考察を踏まえ、MICEマーケティング戦略の策定に向けての課題と方向性を取りまとめる。

#### ①ターゲットの絞り込みに向けて

**誘致ターゲット絞り込みに向けて、学協会情報を整理し、キーパーソンにアプローチを**

- 今回の調査で対象としたのは、きわめて限られた国際会議等であったが、今後のMICE戦略展開に当たっては、効率性の面からは、幅広い分野に及ぶ膨大な数に及ぶ国際会議・国内会議を開催する各国学協会、各国政府、政府外郭団体、産業団体、民間企業等、さまざまな会議開催主体の中から誘致ターゲットを絞り込むことが課題となる。
- その前提として、内外の主要な学協会等の開催地巡回の時期、ローテーション、何より国内組織委員会メンバー、これまでの京都での開催実績等に関する学協会情報の整理(データベースの構築)がまず必要である。その中から優先すべきターゲットを設定し、いずれはあらゆる人的ネットワークを活用しターゲットとなるキーパーソン、もしくは「ネクスト」キーパーソンへのアプローチ方法を探る必要がある。

#### ②国際会議等の分野・規模・時期の基準

**京都という都市のあり方やテーマ分野、予算規模等を総合的に検討した「基準」に基づき、京都にふさわしいターゲットを絞り込む**

- 絞り込みに当たっては経済規模・波及効果の面だけでなく、京都という都市のあり方や性格、重視される政策等を考慮して設定されなければならないことは言うまでもない。市内の会議施設や宿泊施設等、現実的な施設・体制の受入れ状況と可能性等の考慮も必要となる。そうした総合的な検討のもとに「基準」の設定が達成される。
- 仮に学協会を誘致ターゲットに設定するにしても、実際にはさまざまな種類のものが存在する。「医歯薬系」「科学技術系」「社会・人文科学系」「政府系」「国際団体系」「官財一体系」等、枚挙にいとまがないが、こうしたテーマ分野は基準の1つになる。
- また、会議開催予算規模、例えば「1億以上」「8,000万以上」「5,000万以上」といった経済産業的な視点から決定していくというのも基準である。「8,000人以上」「5,000人以上」「3,000人以上」…といった参加者数による規模もある。大型の会議だけでなく、近年増えていると指摘のあった500人～1,000人規模の中型会議も当然ながらターゲットに据えるべきである。
- どの季節に開催するかという開催時期の問題もある。春秋の観光のトップシーズンを定例開催としている場合は、受入能力・体制の調整が難題となる。
- 大きくは、以上の「テーマ分野」「予算規模」「参加者規模」「時期」といった枠の中で、現実的に「動いている」案件の中から、京都が誘致するにふさわしいターゲットもしくはターゲット群を絞り込んでいくことが現実的であろう。

### ③開催主体への支援等

#### 誘致支援制度の拡充、情報案内システムの整備、事務局機能の支援を

- まず何より開催主体への財政的支援は、きわめて効果的な開催誘導策であることは言うまでもない。京都の国際会議誘致支援制度を「他都市並み」に拡充すべきことを繰り返しておく。開催時期の変更等に応じてくれた会議は優遇するなど傾斜配分も一考に値しよう。
- 財政的支援とともに情報発信・情報ツール提供等、側面的な支援があれば、京都での会議開催・定着に果たす効果は大きい。会議主催者に対する会場紹介等の初期情報の案内システムの整備等、会議主催者・会議主催予定者への情報支援については先に触れた通りである。
- その他の支援では、学会事務局としての機能を果たせない学会への支援、京都に開催地を定めている会議を保持していくための支援等が考えられる。会議主催者へのヒアリングからは、事務局を固定して会議開催を継続しているところは別にして、学会に属する一般の大学教員等に「お鉢が回って」くれば、準備・開催・事後処理に至る過程で得られた大切なノウハウが「次」に継続されていかず、終了後は達成感より疲労感が勝ってしまう現実があることが分かった。ノウハウ継承と京都定着のために、恒常的な空間や情報システム、人員を貸与する方向があると考えられる。

### ④京都市・京都文化交流コンベンションビューロー等の資源の活用

#### 持てる資源を見直し、地元人的ネットワークを活かして、MICE誘致の体制強化を

- 以上のような新たな展開には、すべて人員と予算が伴うことは言うまでもない。MICEの「さらなる」振興に、MICE誘致主体が限られた人員と予算ではおのずと限界があるが、ここではあえて触れない。いずれにせよ、京都市観光セクションや京都文化交流コンベンションビューローが、現在持っているさまざまなハード・ソフトの資源を見直し、活用方策を検討する必要がある。人材、情報、ノウハウ、実績、ネットワーク、予算…見直すものは限りなくある。やるべきことがやれているのかいないのか、もしやれていないのなら何故か…という不断に続く自らへの問いかけとも符合する。
- 資源として第一に取り上げるべきは人的ネットワークであり、すべての活動のベースになる。すでに一定程度は達成されているが、政府や観光関連機関はもちろん、地元大学研究者や関連業界、PCO、文化財保有者、文化施設等と恒常的な情報交換を行い、ラポールを確立して絶えずMICE誘致に向けての有益な情報を獲得し、場合によっては実現に向けての連携を図っていく。これがMICEに対するオール京都体制の礎になる。
- また、世界的ネットワークを持つ民間企業が市内にはいくつかあり、そうした企業とのネットワークは、「C」（会議、コンベンション）だけでなく、「M」や「I」「E」の案件情報をすぐさま入手することにつながる。こうして得られた有益情報を生かし、持てる資源を活用してMICE誘致を図っていく体制の強化が求められる。

京都市におけるM I C E実態調査

平成26年3月

京都市産業観光局観光MICE推進室

〒604-8571

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地